2007年　栄光への軌跡　～目指すは、秋田～

全国高等学校選抜ボート大会の巻

貸切バスの中から、ぼんやりと窓の外を眺めた。

午前中の予選に引き続き午後は敗者復活戦だ。浮世絵の雨のようにグレーの斜線が天竜川の水面に掛かっている。

「やっぱ、敗復回っちゃ、おえんで。雨の中子供らが漕がんで良かった。」

「あーぁ、シングル艇が上がって行きようる。大変じゃなぁ。」

3 月 23 日夜 10 時　青葉さん宅集合。ノボリ・コンロ・ヤカン・テーブル 2 つ・横断幕と応援セットの他に保護者其々が折りたたみのイスとお湯の入った水筒を次々と抱え、バスの横っ腹のトランクに詰め込み始めた。2 泊 3 日(車中 1 泊)の全国ボート高校選抜大会関西応援団の出発だ。

静岡県天竜市へバスはひたすら走り続ける。中では早くも宴会が始まる。ビール・チューハイ・ジュース等、「明日のために寝なくて良いのか？」と諭す人は一人もいない。自分達が持ってきたお菓子やツマミが一斉に車内を巡っていく。昔懐かしい子ども会のお菓子の詰め合わせを彷彿とさせる物まで「〇〇さんからです。」と。心の中で私も持って来て良かったー。と、ホッとする。まるで町内会のバス旅行のノリだ。

話題は試合ではなかった。

「このバスおっきいねぇ。高いんちゃうん？」と、誰かが言い出した。

手配した岸本母が説明を始める。

「・・・・と言う事で、大きいのになったんです。料金は同じですから」

「こりゃぁ、ええわ。一人２シートなら隣に気を使わんでええし、来年も頼みますよ。」

運転手は苦笑いしている。大騒ぎしてしゃべっていても、少しずつ会話は減り、眠れなくても目だけは閉じていようかとじっとしていると、いつの間にか車内は静かになっていった。

3 月 24 日朝、未だ薄暗い中、高速道路から一般道へ降りた。

静岡の街は未だ眠っている。早朝の清涼感が窓越しに感じられた。道が分からない。後どれくらいで目的地に着くのか？

「どっか、コンビニに寄って下さい。」と、森本父(保護者会長)が運転手に頼んだ。

朝食と昼食を調達して行かなくてはならないのだ。子供達にはコンビニ禁止といつもうるさく注意しているのに親は朝も昼もコンビニで良いのかな？と、不思議な矛盾を口にする。

「私らは艇漕がんし、今更じゃし。」と誰かが答える。

思い思いに、おにぎり・弁当・サンドイッチと飲み物を買い込む。地元紙を森本父が広げていた。流石、目の付け所がちがうな、と感心。

目的地、関西保護者会応援定位置である。民家の車庫に５時半着。いつもバスを止めていると言う、ちょっと道幅が広がっている場所にはロープが張られ、駐車禁止の看板が有った。
「去年は無かったのにぃ。」・・・でも、今年はある。
とり合えず、荷物を降ろし始めノボリや横断幕を張って行く。が、バスから降ろすものと乗せておくものとで迷い、数名があたふたと言ったり来たりを繰り返す。そんなこんなをしているうちに、すっかり夜は明けてしまっていた。
さて､バスをどうしようかとゴソゴソしていると､他校のボート選手が側を走っていた。ウォーミングアップだ。元気良く「おはようございます。」と声を掛けながら通り過ぎて行く子もいれば、ダラダラとしゃべりながら朝のオサンポになっている子もいて、其々の校風が分かる気もした。そして､その中にダラダラのおしゃべりボーイズ美方高校の生徒が、
「ここは、駐車禁止なのに―。○＄％＃＆・・・」
ちょっと、かなりムッとした。その後バスは川上の駐車場へと移動していった。

朝食を済ますと､お茶を飲みながらおしゃべりに花を咲かせ､プログラムを買いに行く人、選手の紹介の新聞が有ったと本部席に押しかけ、記念Ｔシャツを買い、お茶を飲みすぎたとトイレへ行く人。トイレから子供達がストレッチしてるとこが見えたと聞き、森川先生から近づくなと言われているため、トイレに行っても知らん顔して横目で見てみたりと、しっかり皆でおばちゃんをしていた。味野さんが持ってきた折り畳みの自転車を借りてゴールより先の道路からコースの全貌を見る。
「凄いから見てきたら？」と言われ、どれどれと蛇行と起伏のある道をえっちらおっちらと漕いだ甲斐のある眺めだ。滑走路と誰かが言っていたが、まさに！
「おぉっ！！」周りに人がいないので声が出た。凄い、凄すぎる。広い、広い・・・。感動の風景である。ここを、えっちらおっちらでは無く、滑る様に艇は進んでいくのか！ここから見るとアメンボウにしか見えんな！？

予選開始。
ここのボートコースは谷間に流れる川に作られているため、山に沿って両岸に道路が走っている。コースか2000m真っ直ぐでも、道は畝(うね)っているのでスタート地点が見えない。木陰から突然ボートが顔を出すのだ。ゴールも双眼鏡でなんとか見える程度で、僅差だと全く勝敗が分からない。ということで、数名がゴール地点で待機していた。
男子クォドルプルは１位でレースが終わった。どこと当たったか何て覚えていない。勝ったのだ。それでは、話にならないのでしまい込んでいたプログラムを引っ張り出す。
ダブルスカル、予選第３組 12 時 06 分
1. 福島　喜多方・・・・・6 着
2. 岡山　関西・・・・・・2 着(Ｓ森本健治・Ｂ安田隆一・補.岩崎浩司)

3. 岐阜　東濃実業・・・・4 着
4. 滋賀　高島・・・・・・1 着
5. 山梨　富士河口湖・・・5 着
6. 愛媛　今治工業・・・・3 着
2 抜けで準決勝進出を決める。

クォドルプル、予選第 3 組 12 時 54 分
1. 岡山　関西・・・・・・1 着(C 小西淳介・S 三村敏玄・3 草地一真・2 植田義之・B 味野聡・補.千葉貴司・補.赤田喬昭)
2. 愛媛　新田・・・・・・4 着
3. 埼玉　大宮・・・・・・6 着
4. 福井　敦賀工業・・・・2 着
5. 秋田　由利工業・・・・3 着
6. 静岡　沼津東・・・・・5 着
3 上がりで準決勝進出を決める。2 着と 6 秒差を開けてのブッチギリだ。コンマ差でトップタイムではなかったが、既に目の前に優勝が見えたような気がした。私のプログラムには準決勝の組み合わせまで丁寧に記入してあった。当時の期待の大きさが伺える。

試合後、子供たちが挨拶に来てくれた。口々に明日(準決勝・決勝)の抱負を語ってくれた。〇西の顔にマジックで大きなホクロが書かれていた。森川先生のおまじない？それとも悪戯か？

雨の敗復レースの会場を後にし、バスは宿泊先へと向かった。

夜、まだ雨は降り止まない。ホテルの部屋の窓を開け、外を、天をひたすら睨みつけていた。雨音で深夜何度か目が覚めた。ここまで降られると朝には止むだろうと楽観出来なくなっていたが、まさかこんな事になるなんて。

3 月 25 日朝、未だ降っている。雨で中止にはならないと聞いていたが心配になってくる。

バスに乗り込み、今日もコンビニに寄り、試合会場の天竜ボート場へ向かった。

昨日と同じくノボリを立て横断幕を張る。違うのはコンビニ調達のレインコートを皆着ている事ぐらいだ。でもやはり、天候のせいか作業がゆっくりである。

霧が辺りを覆う。川の水量は多くカフェオレ色に濁っている。レースはダブルの 9 時 40 分が最初。声の調子は昨日の応援で喉に痛みがあった。もっとも、〇大附属の里さんに応援が無いのは可哀相と母ちゃんズだけで大声を出したからだ。

立てっぱなしにしていた他校のノボリが無残に倒れ散乱しているのを拾い集め置いていたら「ありがとうございます。」と女子高校生が寄ってきた。カワイイ。

18OB 保護者のマイクロバスが到着。試合についての放送は未だ聞こえてこない。川に

は霧の合間から流木が見え隠れする。でも、午後からとか時間をずらせばどうにかなるんじゃないかと淡い希望が消えずにあった。

しかし、遂に放送が流れ出した。「大雨洪水警報の発令と、ダムの放流が決定致しましたので・・・・・。」現実にハッと気付く。そりゃそうだ！ブイはバラバラだし、ゴミは引っ掛かってるし、この濁流の中どうやってスタート地点まであがって行くのか？

のろのろと片付けを始める。18OB2 台目が到着。松永さん夫妻。折角、駆けつけてくださった OB 保護者に皆でお詫びを言って回った。遠い天竜まで来ていただいて、１レースも見ないまま帰って頂かなくてはならないのだ。心苦しさが胸を襲う。差し入れにお菓子まで頂いていた。

片付けを黙々と続ける。タバコの吸殻が目に付く。周辺のゴミもついでとばかりに拾い、お借りしていた車庫も綺麗に掃き、後を濁さないようにして、帰ろうとしていた。

引き上げの前にと、ミネルバ・ロングレンジのショップを覗く。関西高校保護者と分からないようにオレンジのジャンバーを着ている人はいない。すると、森川先生が話し掛けてきた。この頃、私はまだ先生を近寄りがたい存在としてとらえていたので、味野母、植田母、岸本母達にまかせて、そっと側から離れたことを覚えている。今考えればもったいないことである。そこで、どんな話になったのか、帰りに子供達の宿舎であるお寺へ見学に行くことになった。荘厳なお寺の雰囲気とは対照的に子供達の部屋には、例の教科書が隅に重ねてあった。おいおい！である。

帰りの道中は、またまた町内会のバス旅行のごとく、サービスエリアに寄りたおし、そこここで、お土産の買いまくり。定番の鰻パイに饅頭・クッキーと皆、家に仕事先に自分にと大会中止の憂さを晴らすように買い、喋り、飲み、食べた。天竜帰りの各校のマイクロバスも見かけ、特に柳学園の黄色に、「バスは立派だけどマナーがねぇ・・・」と排ガスで悩まされた思いでついつい文句が出る。とうとう各高校のバス談義まで発展する。古いの汚いの錆びているとか・・・鬼火弾号よりボロだと嬉しいのである。まして、鬼火弾号を見つけた時はバスの中で歓声が上がる。みな、親ばかなのだ。「誰と誰がそこを歩いてる。」だとか、「あんなに何買ったんやろ。」「また、何か食べようる。」
つまり、息子の顔が見れて嬉しくて仕方がなかったと、言いたいのです。

こんな感じで天竜川バスツアーは終了しました。中止になって、残念とか悔しいとか、其々の胸の内には色んな思いがありますが、この年の最初の全国大会、子供達のスタートはベスト 16 という中途半端な記録で残ることになったのです。そして、これが苦しく、辛い一年の幕開けとなるのです。

４月の試合

応援に行っていない試合について、どうしようかと思ったが、簡単にだが書く事にした。行かれた方は自分で勝手に思い出していただきたい。

4 月 7・8 日、第 14 回松江レガッタ

場所・・・・松江市　大橋川　1000m特設コース

応援団・・・19 年保護者小西以外全員それから平松父、木村父

関西選抜クルー

関西即席クルー

島根大学 8×

中国電力島根発電所 4×

試合でなく、この 4 艇で並べたそうだ。母ちゃんズのそばにいた大学生が

「関西は選抜クルーだそうだぞ。」

「やっぱり、速いナー！」

と、感想を話していたのがとっても印象に残っていると味野母は語っていた。

今年(2008)も松江には行けなかった。大学の入学式に行ったからだ。味野父、平松父が行っている。森川先生から夜、電話が掛かってきた。「来年は来て下さい。こっちの桜も綺麗ですよ。来んかったらハミですからね！」・・・応援にではなく、花見と称する飲み会のお誘いらしい。19 母ちゃんズによると、「私の携帯にも掛かってきたよ。」・・・あちこち掛けていたらしい。

4 月 22 日、第 51 回日・立・明三大レガッタ

場所・・・・埼玉県戸田市戸田公園　東京の大学ボート部の艇庫が集まるメッカだ

メインは大学生によるレースであるが、招待として何校か高校生が出艇する。選抜メンバーが飛行機に乗って上京。

応援団・・・赤田父

いつの飲み会であっただろうか、そうそう、6 月 2 日の新入生保護者歓迎会で三村父よりこの時の話を伺った。駅前の『石榴（ざくろ）』という居酒屋で、

「赤田父は、１人で NRM での応援をして下さいました。大きな声で朗々と関西高校の校歌を唄ったのです。戸田の各大学にいる関西ボート部 OB は艇庫で懐かしい校歌を耳にし、皆むせび泣いたと言う事です。・・・・あっ、東大には OB はいませんでした。」そして、個室では無いにもかかわらず赤田父の音頭で、皆で校歌を歌った。厨房から男性が覗きに来る。苦情ではなく笑いながら見ていた。きっと、彼も関西の OB なのだろう。

4 月 28・29 日、湖山レガッタ

場所・・・・鳥取県　鳥取大学の近く

引率に森本父、味野父、岸本父(ドライバー)が子供達を運んだ。
応援団・・・草地父、岸本母、徳本母、岩崎母・姉、赤田母・なみちゃん、私ら夫婦である。＋2 年父母数名。

＊対抗メンバーは森川先生と朝日レガッタに向けて特訓中の為、参加していません。

試合はクォドルプルに A･B　2 艇が参加､プログラムのクルーとは違うメンバーで出場。優勝は西市高校｡彼らはとても規律正しく精悍な顔をしており､周りの空気も違っていた。前日、どうやって湖山へ行こうかと母ちゃんズは困っていた。岸本父は鬼火弾号に乗るし・・・。そこへ、草地父が名乗りをあげた。

「一真君、出ないのに・・・」

「いいえ、行けるときには応援に行かないと。」

そうして、本物のお嬢さん 2 人と〇十年前のお嬢さん 4 人を乗せ往復したそうです。良い様に考えればハーレム？この時のなんで草地父が！の印象が尾を引き、補漕であろうが私も行けるときは行くぞ！！と、佐賀に行ったのだ。

引率隊の父ちゃんズも慣れない車の運転ご苦労様でした。この日の鬼火弾号はちょっとおしゃれに変身していた。ETC なるものが付いたのである。どうして？どこにそんなお金が？？・・・ある方より、初漕ぎ会の時、お祝いを(お年玉？を)頂いたのである。全国を飛び回る鬼火弾号にとって、ピッタリのプレゼントと思う。

第 60 回朝日レガッタの巻

5 月 2 日　興奮して眠れない。明朝は早いのに・・・荷物は整った。車で飲むためのホットコーヒーと栄養ドリンクも用意できている。3 時半の迎えまで一眠りしとかないと。うつらうつらしている間に起きる時間になった。寝た気は全くしない。深夜というか早朝というか、冷気の中、道まで出た。県道で拾ってもらう。車内には味野夫妻・徳本母が、私の後は岸本母・植田母を拾い高速に乗る予定だ。拾うのは大変だからと皆口々に言ったが、味野夫妻の押しに負けた形だ。ありがたい、タクシー代が浮いた。

5 月 3 日　高速の道中は余り記憶に無い。喋り倒していたには違いないはずだ。瀬田東のインターで降り、歴代の応援団が集った 750m地点に荷物を下ろし、車はホームセンターの駐車場へ吸い込まれた。

草地夫妻が、既に陣取ってノボリまで立ててくれていた。急遽、前泊にして、すぐ側の高級ホテルに泊まったという。森本号もその後到着。時間が経つにつれ 2 年保護者も着き、わらわらと大応援団が膨れ上がっていった。お湯を沸かしお茶を配り始め、交代でプログラムを買いに走る。気温の暑さを心配して冷たい飲み物が足りないのではと、氷とアイスコーヒー等を買い足しに走る姿もあった。OB 保護者もポロポロと関西ブースを覗きに訪れはじめた。しっかり『差し入れ』を置いて言ってくれる。ありがたい事だ。来年は私たちも見習わねばと思う。少しお話をされた後、各大学の応援席に散っていかれた。

この大会も勿論、初日に記念 T シャツは買った。小さな文字だが選手全員の名前が入っている、自分の息子の名前を探すのに一苦労した。次の日に着ていくと、私の広い広い背中はまるで合格発表の掲示板扱いだった。

さぁ、今日一発目の試合が始まった。

シングルスカル予選　10 時 14 分　関西Ａ岩崎浩司・・・2 着
　　10 時 46 分　関西Ｂ徳本泰三・・・3 着
　　3 位上がりで 2 人ともクリア

ダブルスカル予選　12 時 14 分　関西 A(味野聡・安田隆一)・・・2 着
　　若狭高校に 1 着を譲る
　　12 時 22 分　関西 B(岸本大佑・青葉真弥)・・3 着
　　宇和島水産伏見混成に 1 着、敦賀工業 C に 2 着を譲る
　　3 位上がりで 2 組ともクリア

調子が良いぞ！1 着は無いけど敗復も今のところ無し。たが、このレースの 1 着チームは後々決勝まで進み、混成チームはガチガチの大本命で優勝をさらって行くのであった。

「なんや！この混成って？こんなのアリなんか！？」

「京都と愛媛ってなんでじゃ？どーゆー関係じゃ？」

応援団は素直に何でも言葉にする。混成の一人、西村君は 1 年後仙台大学に進み、2 度目のジュニアで世界への切符を手にした。

あれぇ、〇三の顔がおかしいぞぅ？シングル・ダブルの選手達が挨拶に来る。挨拶は聞いているのだが、目は〇三に釘付けだ。口の下のヒゲ・もみあげがマジックで黒々と描かれている。笑いが込み上げてきて我慢できない。この日は、応援席に先生もフラッと寄ってくださった。しかし、私は遠巻きに話を聴くだけである。

1 時間半の空きが出来たので、記録を記入しにレース結果の貼り出しを見に行く。そして、昼食。またもやコンビニ。切ろうにも切れないご縁のようです。やでやで・・・暑っちーなー！日焼け止めを塗りたくり、手袋をはめる。植田母の行動で皆が私も私もとゴソゴソし始め、日傘・手袋を買いに行く人も出てきた。

ボートを見ながら散歩をしていた老夫婦が徳本母に声を掛けてきた。

「ここに座ってもよろしいですか？」

「ええ、どうぞどうぞ。」

ベンチのある日陰に腰を掛け、『関西魂』と、書いてある横断幕を見上げながら

「関西高校は、今も未だ男子校ですか？」

と、尋ねられ

「はい。男子校です。」

関係者かな？息子さんでも通っておられたのだろうかと、徳本母は思ったが、それ以上聞かなかった。横断幕の前で写真を撮った後、暫く休んでご夫婦は静かに立ち去られた。私は、この少子化で生徒数が激減する中、あちこちで共学に変わっていく他校を見るにつれ男子校を貫いていく関西高校を誇りに思っている。いつまでも男子校のままでいて欲しいと切に願っている。

朝日レガッタの楽しみは試合だけでなく OB に出会えるという事もある。遥か上の OB は分からなくても、息子達が 1・2 年の時にお世話になった先輩方なら気さくに話も出来る。この日一番の衝撃を与えてくれ話題の中心に成ったのは、龍谷大学に行った増成君だ。何と彼は金髪に髪を染めていた。それを知った母ちゃんズは「どこどこ？私も見たい！」と、騒いだ。後で、龍大ボート部の 1 年は染めなければいけないと知った。来年は誰がパツキンに？と考えを巡らせたのは私だけでは無いはずだ。

1 時間半経った頃なので試合に戻ります。

クォドルプル予選　13 時 58 分　関西 A(森本・植田・草地・三村・赤田)・・・1 着
敦賀工業を 2 着に抑える
14 時 14 分　関西 B(林田・安井・高木・千葉・小西)・・・3 着
補漕(藤原・廣田)

2 位上がり、つまり 2 年生チーム B は敗復決定！

この日の事は忘れないだろう。挨拶に来た 2 年生チーム 1 人 1 人がたどたどしく話し出した。3 年〇西がまとめに掛かるが、林田を飛ばしていた。確か、湖山レガッタの挨拶でも林田を飛ばそうとしていた。そんなに存在が薄いか？身長は一番でかいぞ？そう、湖山

でも負けて、うな垂れた挨拶を聞いた覚えがある。しかし、ここは琵琶湖。舞台のでかさが違う。〇西は泣きそうで我慢が出来ず早く挨拶を終わらせたかったのだろう。途中から涙が込み上げ止まらないといった風だった。
「2年を勝たせてやりたかった・・・。」
と言い、2年生を連れ立ち去っていった。
　片付けをし、大津のスーパーホテルへ引き上げる。皆、寝不足だ。夜の飲み会に備えてちょっと休憩。その後、琵琶湖ホテル隣のビルの居酒屋で食事を簡単に摂った。湖岸を歩くと涼しい風がアルコールで火照った体を冷やしてくれそうだ。ホテル前で青・緑と噴水が上がった。

5月4日　今日の敗復レースは13時58分のみの為、午前中母ちゃんズ数名で京都に出る事にした。観光ではない。お土産の調達だ。味野父・小西父は付き合い切れんと出稼ぎに行くことになった。味野父は結構調子良かったらしい。小西父は、まぁ負けずに済んでコーヒー代くらい稼げたかな？
「伊勢丹行くなら、昼飯用に地下で『はつだ』の牛飯弁当買ってきてくれ。」
と言われ、開店ダッシュをし、それでも長蛇の列に並んで何とか人数分買った。なぜ京都まで来て・・・。その後、地下をうろつく。漬物、お菓子、酒。辻利園も覗く。先輩保護者からの申し送りで、お土産を用意するというのを知ったのはこの時だった。携帯電話の普及はおばさん達にとっても喜ばしい発明品だ。皆バラバラに別れて、見たいものを買いに行く。味野母は娘にと「ポロシャツ安いのがあったー」と喜び、森本母は化粧品売り場をさまよい自分の口紅を買った。各階を回りながら岸本母が靴を見たいと言い、「私も！」と見て回ったが２人とも好みのものを見つけられなかった。
　大津駅前で父ちゃんたちと待ち合わせ。「まだかまだか」とメールが入る。「もうすぐもうすぐ」とメールを返す。
「やっぱ、いい女は男を待たせてなんぼよね！？」
と、言いつつも心の中では「やっべー！やっべー！」と連呼していた。
　電車の中で、疑問をぶつける。私はOB保護者について殆んど知らなかった。交流が薄かったので(応援参加が遅かったから)、鬼火弾号が綺麗にお化粧直しした時に、冨田さんちはそうなのか･･･。と納得し、飲み会が成田屋であった時に、小林さんはそうなのか･･･。と判明しただけで、上谷ご夫妻については謎だらけだった。なぜ仙台からわざわざ・・・？初漕ぎ会のときは、新幹線で飛んでこられ早稲田入学決定の挨拶をされていた。いったい・・・？
「上谷さんって、どーゆー方なの？」
「仙台では・・・らしい。駅で自宅を聞いたら・・・・とか。でぇれー、すっげー・・らしい。屋敷は・・・・・とか。」
「へぇー。だから・・・・なんだ。すげー」

こうして、少しずつ情報を収集していくのであった。

暑い日差しの降り注ぐ会場で、買ってきた弁当を早速広げ腹ごしらえを始めた。他の 3 年保護者がすっかり応援準備を完了してくれていたので、ゆっくり試合を待つのみである。

クォドルプル敗者復活　13 時 58 分　関西Ｂ・・・2 着

2 位上がり、何とかクリア

一試合だけのために皆集まったのだが、応援だけでは直ぐ引き上げない。OB も応援する。次に競うであろう他チームのレースも気になる。そして、しっかりレース記録を記入して来る。

父ちゃんズは子供の応援の他にオッズに凝りだした。レースごとにどこが勝つか予想を始めたのだ。2 年の父達まで巻き込んで。不思議と当たるもんで、お金を賭けないと冷静になれるんだろうか？予想も良いが、明日の準決勝の応援もしっかり頼むぞ！それから、優勝予想は関西に二重丸をつけろ！と、突っ込みも忘れなかった。

このあと、母ちゃんズは近江八幡まで観光に行く。私は別行動で大阪方面に・・・。

5 月 5 日　今日も暑そう。750mの応援も熱を帯びてきた。選手の母はゴール地点へ移動する。ジャンボメガフォンも交代で唸(うな)る。初めてすると、必ず声がひっくり返る。それが段々、堂々と上手になっていく。写真担当の植田母・岩崎母はカメラ片手にウロウロし、ビデオ片手に味野母もあちこち走っている。スタートも撮りたいゴールも撮りたい！

シングルスカル準決勝　9 時 04 分　関西Ｂ(徳本)・・・2 着

9 時 12 分　関西Ａ(岩崎)・・・2 着

1 位上がり、ここでどちらも敗退する。

因みに、優勝は今治西の越智君、2 位は小松明峰の 2 年吉原君。吉原君はこの 1 年後世界へのキップを手にする。

ダブルスカル準決勝　13 時 52 分　関西Ａ・・・・・2 着

関西Ｂ・・・・・4 着

1 位上がり、ここでどちらも敗退する。

1 着に 1 秒 32 差だった。後一漕ぎの差だ。750mからでは良く分からない。どっちが先にオールを置いたんだ？と揉めている。ゴール地点の母ちゃんに電話する。「こっちでも判らない。」との返事、待つしかない。ヤキモキの瞬間だ。

「関西同士が当たるのは辛いのー。」

「クォードもじゃが。」

真剣なオッズに変な熱気が盛り上がる。そのデータ集めに何で私が・・・？何度となく掲示板に足を運ぶ。後で思えば、お陰で次に当たる他校の力が大体想像出来る様になっていったから、あながち無駄でも無かったが。

プログラムに一生懸命記入していると、後ろからどっかの男子高校生の声がした。

「何か今年は関西たいしたこと無いな！」
な～～～に～～～っっ！？と振り向くのをグッと我慢。見てろよ！！まだ、クォードが残ってるんだ！！関西Ａは優勝するんだぞ！！キ―――ッ！
　シングル・ダブルの選手が挨拶に来た。
「応援ありがとうございました。負けてしまいましたが、この試合を教訓に次の試合では・・・・・」
このフレーズは、先生の教育か？

　クォドルプル準決勝　　16 時 04 分　関西Ａ・・・・・1 着
　　関西Ｂ・・・・・5 着
　　2 位上がり、Ａのみ決勝へ
　この試合は、スタート地点で観ていた。ウォーターマンの大変さを目の当たりにする。中々艇が左右にぶれてスタートしない。「ゴー」の声で関西 B が先頭に飛び出す。ナイススタート！3 分の 1 艇身位出ているように見えた。が・・・、200ｍも行かないうちに抜かれた。もったいない。あれよあれよと次々と抜かれる。実力の差をまざまざと見せ付けられた気がした。
　残ったのは本当にクォード関西Ａのみ。明日が最後だ！優勝するぞ！！って、漕がない親の言葉としては微妙だが、もう子供達と気持ちは勝手に同化している。自分達が優勝するような気でいるのだ。
「明日も頑張って応援しましょう。」森本父が落ち着いた声で語る。

この日は未だ終わらない。ご存知、毎年恒例前夜祭をするからだ。と、その前に宴会まで時間があるので、またまた京都駅の伊勢丹に行く。ボートの試合はいつも何にも無い山の中とか大きな川の側で、コンビニ・スーパーさえ無い所もある。『電車でちょっと』ができるのは嬉しい。未だ買っていないお土産を物色しに行く。

　夜、怪しげにゾロゾロと男女の集団が石山駅前の『○○○』に吸い込まれていく。店も傾きそうな木造だ。急な階段を 2 階へ上がって行った。いったいここは・・・何料理の店かも分からない。焼き肉屋？だが、テーブルの上のセットを見たら違うような？折りたたみの長テーブルが 3 列並ぶ。一番奥に 3 年の父ちゃんズ、隣に 2 年の父・母。残りは 3 年母ちゃんズに混じり岩崎の姉と三村妹も参加していた。岸本母が居ない。宗也(かずや)君(岸本弟)を長いことほっとけないと一時帰宅していた。彼女は 4 日間の試合で 2 往復することになったのだ。
　最初の一杯を注文。味野母は後の支払いがあるからとビールを断る。2 年母も飲めませんと、しおらしく辞退する。遠慮のなせる業である。大うそつきや！
　陽気なおばちゃんが挨拶しにきて、毎年ここで前夜祭があり、写真も残っていると話す。

いよいよ乾杯する。森本会長の挨拶に続き、三村父の音頭で。
「明日の優勝を祈念して！！」
「カンパーイ！！」
焼酎・日本酒・ビールとおかわりを注文していく中、途中から自分達で勝手に冷蔵庫を開け始める。
「あーーー、いいです。いいです。自分らでやりますから。飲み放題だから、こん中のどれ取ってもいいんでしょう？」
やるな～！森本父。その後は、其々自分で調達をしはじめた。
　私は、2 年の父兄と仲良くなる機会と思い。お酌に回った。これが、未だに笑い話として語り継がれる事になった大失態の元である。2 年母はお茶やジュースで軽い会話で流したが・・・2 年父は強かった。酒に。酔わしてやろうとお酌するうち、アルコール許容量の余り無い私が日本酒を水のごとくグイグイ飲んだのだ。グルグル回ったのは世界焼きではなく私です。ニコニコ楽しい気分で(酔うと座り込んで喋らずに笑っているそうだ)味野母に
「楽しい？ふ～～ん、楽しいの。良かったナ～～」と声を掛けてもらったところで私の記憶は終了。
　食事がひと通り終わると、父達が運動能力を競い始めた。腕立て伏せに、腹筋とメタボ軍団結成のきっかけである。三村父が一番凄い事は予想のとおりであるが、皆なかなか頑張る。
　次は、興に乗ったのか草地父と 2 年安井父の『幽体離脱』ザ・タッチの芸だ。大爆笑を得る。この後、兄弟とか双子と話題に昇る事になる。
　祈念撮影で終了。思い思いの三角帽と蝶ネクタイを付け息子には見せられない想い出の証拠写真が残った。

　実はまだ2次会があるのだ。お開きの後、森川先生からお誘いがかかる。(拉致とも言う？)上谷夫妻を交えて、某お好み焼き屋で盛り上がる？次の年には、このミーティングに参加できるのだか、この時間私は死んだように寝ていた。泥棒が入ったかと思われるぐらい部屋を散らかし、トイレで・・・・。だそうだ。酒豪と勘違いされる様になってしまったが、強ければ最後までお付き合いをしている。
　まだまだ、寝ない人がいた。3 次会へ突入。ホテルの部屋で母ちゃんズの極少人数がひっそりとおしゃべりを続けていた。ビール・コーヒーを片手に・・・ここにも一人記憶を無くす仲間がいた。植田母である。次の日、3 次会の記憶は無かったそうだ。

　5 月 6 日、決勝戦最終日。赤田母となみちゃん(赤田妹)が応援に到着。電車に揺られて来たと言う。天気が悪い。風も出てきた。
「こりゃー三角波が立ったらかなわんなー」

「レースまで雨がもちゃぁーえーんじゃが・・」
朝日レガッタが大会期間中ずっと穏やかな年は無いそうだ。試合前に“沈”した年もあったとか、〇年前にクォードが・・・。ポツリポツリと雨粒が顔に当たりだす。
「うわぁ～　気をつけてよー！」
「すっげー！　若いなー」
荷物が濡れない様にブルーシートを庇(ひさし)に張ろうとしているのだ。上に登りヒモで縛る。荷物を真ん中に集め、イスも寄せるように並べ立てる。
　12 時 25 分スタート　泣いても笑っても最後のレース。応援団は祈るように子供達が上がって行く姿に声援を送る。緊張していないだろうか？実力を 100%出し切れるだろうか？胸の前で手を組み本当にお祈りする。昨日で試合が終わった子、岡山から応援に来た 1・2 年生、補漕の子、皆で精一杯の大声で応援する。
　「アテンション。ゴー」の声が聞こえた。
・・・・・「どんな？」
・・・・「関西出とる？」
「まだ、よぅわからんなー」
「う～ん・・・出とるような・・出とる！」
「出とる出とる！」
「それじゃぁー、いきますよー！！」
「ファイト―――！！関西―――！！」
力の限り声を絞り出す。喉が痛くなろうが、声が出なく成ろうが、もうどうだって良い。
「行け行け関西！！押せ押せ関西！！漕げ漕げ関西！！それ行け関西！！・・・・」
美方とのデッドヒートが続く、応援は悲壮な叫びに変わり、お祈りに変わって行った。
　ゴ―――ル！！・・・・。美方のクルーが手を上げて喜びを爆発させる姿が見える。隣のレーンで下を向いてうな垂れた子供達の姿が見える。負けた・・・・。応援団は暫しボーゼンと立ち尽くす。
　補漕の子達は表彰式に向かうため腰を上げ、ゴール付近の本部席へ歩き始めた。静かに淡々と時が経過していく。雨が少しずつ強くなっていく。
　片付けも静かに始まった。ノボリ・横断幕を外していく。雨が激しくなった。天が代わりに号泣してくれているようだった。が、この場合、迷惑である。庇に張ったブルーシートに水が溜まり、バケツをひっくり返したように落ちてきて、跳ね上がった水はジーパンの裾を、荷物を濡らした。心も服もびちゃびちゃだ。〇西がビデオカメラを置きっぱなしにしている。濡れないように服の中に入れる。森本号が宿舎に選る予定があるというので預けた。関西チームの荷物を積んで帰る事に成っていたようだ。
　大雨の中、其々の車に荷物を積み込み岡山へと引き上げる。赤田親子はナミちゃんが、「寒い」と震えだし、岸本母は父の車で帰るからと言うので空席が有った。空きができたから一緒に乗って帰ろうと誘ったが、車が用意できるまで待てないと石山駅に歩き出して

いった。

後日談を話さなくては成らない。

美〇高校が優勝を決めた後、関西クルーに向かって「ザマーミロ！！」と言葉を放り投げて来たという。大変失礼だ。怒・怒・怒！！自分達の勝利をいくら喜ぼうが勝手だが、暴言を吐かれるいわれはない。しかし、彼らは賢かった。グッと唇をかみ締め、反論する事無く、悔しさを勝つための練習に注いだのである。「美方の 3 倍練習する。」クルーの言葉が響いた。

インターハイ県予選の巻

6月3日、百間川にて。

翌日の朝刊には『関西3種目制覇』と見出しが付き試合の記録の側に『夏に向けた思い爆発　関西』と題した写真つきの記事が出る。詳しくは『2007年　漕跡』をご覧下さい。

小さな大会ながら大きなドラマが繰り広げられました。私がここで綴(つづ)るより多くの感動を岸本母の投稿に読み取る事が出来ます。

確かに、岸本母の様子がおかしかった。シングルが上がる時から。落ち着きがないと言うのか、目の焦点が定まってないと言うべきか、レースが終わるまでその訳を私は知らずにいた。

シングル、スタート。目の前を信じられない光景が走り抜ける。いや、すべり抜ける。三村がブッチギリに通り過ぎる。これは、当たり前であったが、関西残り3艇のせめぎ合い。予想とは大違いの展開になる。

「え～～～～～～っ！！！！！」

「ひぇ～～～～～～っ！！！」

「どしたん、どしたん。すっげー！」

岸本母はもう､涙で見えてないんじゃないかと思う風で､ゴールするまで叫び続けていた。土手の上では、森川先生が大声で言い上げる。

「岸本――――！！☆○☆％★＃！！！！」

何と！岸本が2位に入る。4人中4位と目されていた岸本が！引退を賭けた排水の陣、テロリストの誕生だ。母ちゃんズの数人がもらい泣きでウルウルしていた。皆が皆の息子になっていた。暫くテロリストが話題をさらう。

学校で、

「俺って岡山で2番じぁ。考えてみたらすげーな～！三村の次じゃ」

と言う岸本に、睨(にら)み付ける者あり。

「何アホなこと、よんじゃぁ！！」

と、突っ込む者あり。しっかり、仲間にいじられていた。

中国大会の巻

6 月 10 日、広島県福山市芦田川にて中国大会が行われた。この大会は、単独のもので中国ブロック大会(国体地区予選)とごちゃ混ぜにならない様注意していただきたい。

この試合に先駆けて、5 月 12 日に県予選が行われた。春季大会と言われるものである。勿論、3 種目制覇している。　主力をシングル・ダブルに集める。この情報を得たとたん他校はこの時とばかりにクォドルプルに集めてくる。湖山レガッタで優勝をさらった西市高校・・・応援団は『西市の修行僧集団』と愛着を込めて呼んでいる。「顔つきが違うでしょう？緊張感と勝負に賭ける心構えが違います。」と、森川先生が言っていたのを思い出す。そう、湖山では負けたのに 2 年がヘラヘラしていたのを思い浮かべる。3 年もまだまだ引き締まっていなかった。

子供達は 8 日に出発。記憶が曖昧だが、味野母の差し入れ、お赤飯？のおにぎりと岩崎母の差し入れ、炊き込みおこわと一緒に出発。「かぶっちゃったー」と 2 人の母は思ったはずだ。大量の母の愛情を腹に詰め込んだ事と思う。私も何か・・・と考え始めるが、農家の親戚も無い、スーパーの米では・・・朝もごっつう早う起きんといけんし・・。なので、もっぱらカロリーメイトとゼリーにする。

応援団は現地に 8 時集合。乗り合わせで別々に向かう。7 時には到着している人もいて、森本父の言う「約束を守らない行動力」がこの頃からヒートアップしてくる。

レース結果

シングルスカル	1 位	三村敏玄
	2 位	草地一真
	3 位	江津工業
ダブルスカル	1 位	関西(味野聡・安田隆一)
	2 位	松江北
	3 位	皆実
クォドルプル	関西 4 位	

この大会で一番喜びを噛み締めていたのは、ダブルの 2 人だ。岡山でしか勝てなかった 2 人が、初めて優勝の喜びを感じた。安田母もこの時の、息子の笑顔は忘れられないと語る。森川先生から「負けたら引退」と脅かされていたらしい。授与された優勝カップの新しいリボンに 2 人の名前を味野母が書いて付けていた。

第 5 回全日本 Jr.選手権大会の巻

6 月 13～17 日、熊本県菊池市班蛇口湖にて行われた。私は、毎日パソコンの前で結果に見入っていた。ボート部の掲示板にも試合の後、直ぐに結果が投稿され、仕事帰りに覗く事も出来た。こちらも、詳しくは『漕跡』、及び『卒業文集』をご覧下さい。当時の先生と子供達の声が聞こえてきそうです。

まずは、予選の組み合わせをプリントアウトし、レース 10 分後には掲示板を開き、夜には公式サイトで次の日のレースをプリントアウトする。朝日レガッタのオッズ病が頭の中に蔓延していた。OB 保護者になった今もこの病は癒えていない。

聞いた話だけで書くのも本意ではないが、覚えている土産話を 1 つ。

「B 決勝でねー。橋の上から応援してたんだけど、隣に阿賀黎明の三留監督がいて、選手に指示を出そうとしたら、その声を掻き消すように『一真～～～～！！行け―――！！』って大声出して邪魔したの。」

って、母は強し。後は、馬刺しが旨かったの、草千里に観光に行ったのと聞いたような？

『見えない翼』に映像が残っている。私は、この DVD で初めて班蛇口湖を見た。広い綺麗な所である。あぁ、20 年大分国体で熊本に行ってみたい！！・・・応援に！？馬刺しを食べに！？息子が出なくても、その場にすらいなくても！！「俺が出んのに何で行くん？」と声が聞こえてきそうである。インハイで言われた台詞だ。

そして、もう一つ忘れようにも忘れられない情報があった。また、あの美〇高校だ。三村・草地の世界進出にお祝いの言葉を述べるどころか、

「ピ～ンチ！！関西ピ～～～～～ンチ！！」

と、「ザマーミロ」に続き、からかってきたのである。何と可愛気のない子供達だろう。しかし、確かにインハイの不安要素が出来たのには間違いない。

レース結果については、省略させていただきます。２人世界への切符を手にした。と言う事でよろしいんじゃないかと思います。

国体予選の巻

6 月 23・24 日、百間川に於いて行われた。このレース何が楽しみって、関西の 3 種目制覇は決まっているも同然。それより OB の何人かが帰って来ていて会える、見られるのが嬉しかった。その証拠に 19 年秋田国体四連覇記念の DVD に私が「○○様――――！！」と叫んでいる声が入っている。良かったらご覧下さい。一応試合結果を載せておきます。

シングルスカル　1 位　安田隆一
　　2 位　岸本大佑
　　3 位　備前緑陽
ダブルスカル　1 位　関西 A(味野・徳本)
　　2 位　関西 B(岩崎・青葉)
　　3 位　関西 C(高橋・藤原)
クォドルプル　1 位　関西 A(小西・三村・高木・安井・森本)
　　2 位　関西 B(赤田・草地・千葉・植田・林田)
　　3 位　関西 C(廣田・井上・角南・村田・池田・補.箕浦)

成年の部ではシングルの若山君に注目がいった。1 艇のみのレースだったが、ダブルより早いタイムを目指していたように素晴らしいスピードだった。が、競う相手がいないと寂しい。

ダブルも OB のオンパレード

1 位　関西 OB・A(増成・正宗)
2 位　関西 OB・B(岸本・福田)
3 位　関西 OB・C(平松・守谷)

クォードは品川と混成で COX に小林君が乗っていた。必然的に OB 保護者も沢山応援に来られている。現役に気を使わせたら悪いと、かなりゴールよりに陣取っていた。そこまで、コーヒーを運んだ覚えがある。このお茶出しも楽しい思い出となっている。顔と名前を覚えたり、覚えてもらったり。

≪ちょっと休憩≫

怒涛の5・6月が終わり、中国ブロック大会まで応援団は一息つきたい所である。子供達は練習にテストに忙しくしている。・・・勉強はしてなかったな。

7月8日、安仁神社に必勝祈願に行く。暑い日差しを受けながら階段を登った。禊でお世話になっている神社です。「膝は崩してください。」神主さんの言葉に従う。私ほどの体重に成ると支えるのはしんどいのである。森本父が胡座(あぐら)を組むのを見てホッとする。出来るなら私もそうしたいが、流石にそれは恥ずかしくて無理。インハイと世界ジュニアの必勝を祈祷していただき、少しお話を聴き、お札を貰った。インハイに持っていってもらうのだ。

7月15日、シーシェル奥田さんの結婚式。いや～～～！もう1年経つんですねー。幸せですか――！？去年の手帳見てたら書いてあるの見つけました。

森川先生はとてもマメな所がある。トレーナー・Tシャツと次々と作っていく。新しいのが出来るたび、あれも欲しいこれも欲しい。と、ついつい買ってしまう。他校ではいくらかあるにしても、これだけバンバン作らないだろう。長渕バージョンは有名で、応援以外でこれを着たため問題が起こったこともあったと聞いたが、欲しいものは欲しい。他にも携帯ストラップ(2パターン持っている。)ローイング・ベア(お気に入りで部屋に飾っている。)朝日レガッタで注文を取り、即日完売した。あとは、カレンダーと記念葉書・年賀状・・・大笑いできる。と言うか時々不気味にさえ感じる。郵便受けの葉書を見て「うわっ！なんじゃこりゃ！！」と叫んだ事もある。Tシャツなど、どれを着ていこうかと迷うぐらいだ。もう、卒業したのでいらないはずでも、新しいのを見ると欲しくなる。これは一種の中毒か？？宗教法人・森川教団に知らず知らずのうちに洗脳され、在家信者になってしまったか？・・・ちょっと大袈裟だ。後援会＝森川ファンクラブぐらいに留めておこう。

母ちゃんズも其々の個性が分かりかけた頃だ。皆仲良くまとまっていても、やっぱり合う合わないが多少ある様で、面白い。そして、3年の最初に決めた役割担当も大まかにはあるものの、自分が得意とするものを担っていった。これが、絶妙のバランスですんばらしい！！のだ。確か、私は会計であったが全くしていない、すべて味野母がしてくれた。集金を手伝ったくらいであろうか？替わりにレース速報を投稿したりしている。これは誰の担当だったか覚えていない。まぁ、それが高じて、バンバン感想投稿をするようになり、やがてはス○○ク○○ンへと変貌してしまったのだ。森川先生は面白がっているが、これ以上、ちょーしーこかんように気をつけねば。・・・と、言いつつ・・こんなエッセイ？回想録を書いてる私って・・・。何？？

国体中国ブロックの巻

7月22日、芦田川ボートコース。

あれぇ？若山君がいない。・・・彼は6月25日U－23に選ばれ世界選手権(イギリス・ストラスクライド)行きが決まったのだ。成年男子シングルは福田君が漕ぐ事になった。成年は1位ならずも全種目出場権を獲得した。

レース結果

シングルスカル　3位　岩崎浩司

2上がりのため、国体には行けなくなった。挨拶を覚えている。彼は淡々と出場権を逃した事を詫びていた。

ダブルスカル　　1位　岡山選抜(三村・草地)

レースの後、ケンカが始まる。彼らの目標は1位ではなかった。世界進出を決めた2人にとって勝つのは当たり前で、目標タイムがあったのだ。クォードより早く！！・・・クォードに勝てなかったのは何故かで争ったのである。傍から見ると微笑ましいが本人達は真剣だ。

クォドルプル　　2位　岡山選抜

修行僧集団に負けた。

翌、23日。西川の焼き肉屋『○イ○チ亭』で国体出場のお祝いと、インハイの勝利を願ってお食事会があった。早めに到着した私に、息子が店の入り口で待ち構えていた。練習後、一旦自宅に戻らず映画を観ていたらしい。誰と？荷物を入れる紙袋を買って来いと言う。「まったく、何て優しい息子だ。」ドレミの百均に行き、戻ってくると既に全員揃っていた。いつも、わりと遅れる先生まで。更に、ご丁寧に、先生の向かい側の席を残してくれていた。「誰の陰謀や？」バリバリ緊張する。先生の発案で保護者・生徒が固まらないように入り乱れて座る。私の隣に植○君が来た。

「おっ！一番いい男が来た！」

と言うと、相当照れていた。向かいの先生が

「そうやろー！エエ男やろー！」

OHKの『あっぱれ！ジュニア』が放映されたばかりで、盛り上がった肩甲骨を映してもらっていた。私は子供達の食べっぷりが見たくて、焼けたお肉を「食え食え！」と言わんばかりにのせていた。

子供達は時々席替えし、親も席を替わる。その都度「食え食え」と各テーブルで食べさせられ、死にそうに転がる子も出てきはじめた。トイレでリバース・・・しちゃった子も・・・

「リバース？？？何をやっとんですか？！やり直しや―！！森○――――！！！！食え――――！！！」

森川先生の檄が飛んだ。・・・・・ご愁傷様でした。

閉めに、エールと校歌を歌いお開きとなる。

インターハイの巻

8 月 8 日(水)15 時 30 分開会式。これに間に合わせるように味野号に味野母・岸本母・植田母・徳本母が岡山を出発した。女 4 人、カーナビを頼りに珍道中を送ったのであろう。森本号は親戚宅に寄るからと、別行動で予選に向けて出発。私と安田母はこの日仕事が休めず、22 時 05 分発博多行きの高速バスに乗り込む。明日の朝 7 時 05 分着まで我慢の旅をする。夜行なので喋る事さえ出来ず、ただ、じっと眠れない夜を過ごす。

8 月 9 日(木)博多駅前に着いた。ムンッとした空気のバスターミナルに降りる。まずは、身だしなみを整えにトイレに向かう。駅ビルの狭いトイレで顔を洗い化粧をする。それから、大きな荷物を引き摺りながら喫茶店を探し、朝食を摂ると、やっとひと息つけた。

さて、ここからまだまだ道のりは遠い。地下鉄に乗り、電車を乗り換える。唐津まで景色を見ながら喋る喋る。海岸沿いゴトンゴトンと、のどかに揺られながら、瀬戸内海とは全然違う綺麗な海に感激！バラックのような海の店には、溢れんばかりの浮き輪と氷の暖簾(のれん)が覗(のぞ)く。試合が 4 時過ぎだったので慌ててはいないが、「まだ着かん～～！」「景色も見飽きた～～！」と愚痴も出てくる。唐津駅に着いたのは昼近かった。

駅前からシャトルバスが出でいた。軽く昼食をと蕎麦屋に入ったのが失敗。開店すぐでぼっけぇ待たされた。シャトルバスの出発時間まで周辺をうろつくと地元の高校生がボランティアで案内係をしていた。また、ケーブルで生中継をしており、思わず画面の前で立ち尽くす。「ボートだ！ボートだ！」「大画面だと迫力あるな～。」・・・テレビの前に椅子が無いので、途中で諦めバス停傍のベンチに腰掛ける。

と、そこへ女子高校生の集団がわらわらと集まってくる。彼女達もボートコースへ行くらしい。安田母が

「どこから来たの？」

と聞くと

「新潟から来ました。」

「まぁ、遠くから大変ですねぇ。頑張ってください。」

はて？新潟って高校はどこだっけ？安田母は即座に

「阿賀黎明」

あっ、そうだそうだ。岡山からでもいい加減遠いが新潟からか・・・半端なく遠いな。

「ほらほら、阿賀黎明って言ったらあの監督のとこじゃん。」

？？？どっかで聞いた事がある様な･･･！！あっ！あの▽△な！！名前まで知らんけど。

「何て名前だったかな？・・う～ん。思い出せん。え～と、ハンコみたいな・・・」

ハンコ？？？印鑑？？おばさんは思い出すのに少々時間がかかる。

バスが来た。また、このシャトルバスが半端なく遅い。宿舎を巡るルートのようで、停留所でも、なかなか出発してくれない。

「あっ！！！」
なんだなんだ？
「思い出した！！監督の名前！▽△・▽△監督だ！！」
・・・と、言う事は、ハンコと言うのは。
「認印で覚えようとしたんだ。そうだったそうだった。」
安田母、ユニークなお人柄である。
　シャトルバスから降りると灼熱地獄が待ち構えていた。荷物を引き摺りながら、川はどこ――。応援団はどこ―――。会場を見渡す。河川敷の大きなテントの中にはイスと巨大スクリーンが設置され土手の上に記録発表の掲示板と大量の引き出し、隣には無料でドリンクを配っている。選手用だと思い。通り過ぎようとするが、「いかがですか？」と声をかけられた。旨い！生き返る思いだ。その隣はオール置き場・・・関西のオールを探す。その向こうに小さなテントが並ぶ。おもに選手が日陰を求めブルーシートを敷いて転がっていた。インハイ 4 日間の間この小さなテントで他校の選手が勉強しているのを目の当たりにした。夏休み、受験生にとっては勝負の時であるはずだ。それに比べて・・・。
　見つけた。関西応援団。あまりの暑さに急遽テントを購入していた。
「遅い！遅い！」と言われても、こんなに時間が掛かるとは私も思っていなかった。試合には十分、間に合ったのだから勘弁して欲しい。味野号・森本号・夜行バス隊・千葉夫妻そして、岩崎家が今日の応援団だ。岩崎母は浩司の姉 2 人と祖母を連れて来ていた。
　インターハイ。母ちゃんズにも其々の思いが交差する。味野母は息子が補漕なので行くか行かざるか迷い、補漕でも絶対行くぞと私は早くから思い。岸本母・徳本母・岩崎母・安田母はこれが最期かも？赤田母はホントに最期だと、逃すものかと強い思いで来ている。

佐賀・松浦川ボートコース決戦の火蓋が落とされた。

16 時 24 分　クォドルプル
　2.佐賀県　唐津高校・・・・・・4 着
　3.兵庫県　柳学園高校・・・・・2 着
　4.新潟県　阿賀黎明高校・・・・3 着
　5.岡山県　関西高校・・・・・・1 着
　　(C 赤田喬昭・森本健治・植田義之・安田隆一・千葉貴司・補.味野聡・補.小西淳介)
　最初のレースから厳しい戦いとなる。スタートから出遅れ、阿賀黎明・柳学園に先行され必死の応援を続ける。阿賀黎明が後半延びず、1 つ抜き、2 つ抜き・・・結果を待って、1 着と知る。コンマ 77 差、辛(から)くも差す。
　△▽監督が後ろを行ったり来たりしている。上から下まで赤一色のスタイル。テンガロンハット(カーボゥイハット)まで赤だ。縁起担ぎか？余りの暑さ(熱さ)に、みんな一歩

引いてしまった。

16 時 32 分　シングルスカル

2.香川県　高松高校・・・・・・1 着

3.沖縄県　美里工業高校・・・・4 着

4.奈良県　十津川高校・・・・・2 着

5.岡山県　関西高校(岸本).・・・3 着

どちらかと言うと、無名選手ばかりのレース。お互いの実力が分からない。組み合わせを見た時、これは行けるかも！？と期待をしたが、残念。敗復へ・・・。

試合前、岸○はウロウロ落ち着きがなかった。緊張 MAX だったのだ。リギング場と仮設トイレの間に応援団が居た。試合中は声が掛けられない。知らんぷりを決め込もうとするが、気になる。後で聞く所によると、緊張で泣き出していたという。○野が「しっかりせんかい！」と、どついてくれて正気に戻ったらしい。

16 時 56 分　ダブルスカル

2.愛媛県　今治西高校・・・・・2 着

3.群馬県　館林高校・・・・・・4 着

4.滋賀県　高島高校・・・・・・1 着

5.岡山県　関西高校・・・・・・3 着

(S 徳本泰三・B 岩崎浩司・補.青葉真弥)

観客として観るならば当たりが悪い。今治は松山の合宿中でも 1 度も勝てなかったという。しっかり離されてゴール。敗復へ・・・。

この日の朝、▽崎が走っていると「もしもし、桃太郎さん何処へ行くんですか？」と犬が襲ってきて、キビ団子を持っていなかったので T シャツを食いちぎられた。ボロボロのシャツで帰ってきた▽崎を見て､｢こんな珍しい事もあるもんじゃ？！きっと良い事があるに違いない！！」森川先生は喜びましたとさ。どこまでも前向きである。さぁ、いい事はこの後起きるのでしょうか？

去年は、敗復は OFF となり、観光に行ったそうだ。今年は・・いいのだ。観光では無く応援に来たのだから。

岩崎家は一旦岡山へ引き上げて行った。明日の仕事がどうしても休めなかったと言う。11 日に再び岩崎母 1 人、新幹線で飛んでくる。2 往復、根性と情熱と母の愛である。

子供達が泊まっている唐津ロイヤルホテルはこの辺で一番高級なリゾートホテルである。故にビールの持込が出来ない。ごっつい高くつく・・・ので現地にいる保護者が陣中見舞いを差し入れる。一人○千円。別にビールを買うための差し入れでは有りません。

夕食はホテルの近所の居酒屋で、昨日食べに行って美味しかったからと連れて行っても

らう。イカを食べる。注文した中にイタワサと蒲鉾の鉄板焼きがある。お弁当のおかずにとても参考になる。
「100 円の蒲鉾をフライパンで焼いて、醤油とマヨネーズをかければ出来上がり。」
「100 円の蒲鉾が 400 円に化ける！」
岡山に帰って、何度か弁当に入れた記憶がある。

8 月 10 日(金)、敗者復活戦。
10 時 16 分　シングルスカル
1.栃木県　藤岡高校・・・・・・5 着
2.宮城県　石巻高校・・・・・・1 着
3.青森県　むつ高校・・・・・・4 着
4.千葉県　小見川高校・・・・・2 着
5.岡山県　関西高校(岸本)・・・3 着
面白いレースだった。一体、何度審判艇に「岸本」と呼ばれただろう。コース取りを修正しても修正しても、必死で漕いでいたので直ぐ斜めになってしまった。ひたすら、一生懸命漕いでいた。応援団にはこう映っていた。「すっげー！心臓強いナー！審判艇、無視してたよ。」・・・「聞こえてないだけじゃ・・。」と、3 上がりで準々決勝へ。
岸本母は感激と嬉しさの余りダッシュでアイスクリームを買いに行く。それもハーゲンダッツ！！有り難くみんなで頂く。岸本父・息子の間で男の約束があった。仕事が忙繁期の父は予選を観にいけなかった。父は「敗復勝ち上がれ！！勝ったら徹夜で駆けつけるから！！」・・約束どおり勝った大佑は母にメールで「約束どおり勝ったで！！伝えといて！」と送ってきた。その夜、父は弟・宗也君を連れ、本当に徹夜で佐賀に飛んで来たのだ。

13 時 16 分　ダブルスカル
2.群馬県　館林高校・・・・・・4 着
3.香川県　坂出商業高校・・・・3 着
4.長崎県　大村高校・・・・・・2 着
5.岡山県　関西高校(岩崎・徳本)・1 着
いい試合だった。気持ち良いほどスイスイと進み、あれよあれよと言う間に 2 番からトップに踊り出てゴールしちゃったのだ。応援団も応援のし甲斐かがあったというか、ホッとする。2 上がりで、1 着だから当然準々決勝へ進む。お犬様のご利益(りやく)？

お昼は唐津バーガーを食す。森川先生ご推薦。味野号の人たちは昨日食べたと言う。ワゴン車のお店で松原にて営業していた。彼女達は松原に在る、しゃれたレストランで昼食を摂った。やっぱ 2 日連ちゃんはツライだろう。

小西父が到着。盆休(ぼにやす)みに入ったので大阪から夜行バスでやって来た。高速バスをよくご利用の方はご存知かもしれないが、岡山より大阪からの方が安い！需要と供給の問題だ。スーツ姿・・・目一杯場違いだ。国体の応援に行けないのを誤魔化すように佐賀まで来たのだ。

どのタイミングだったか忘れたが、隣に岡山□□業の応援団がいた。「子供達が関西の応援しかきこえない。って言うんです。一緒に応援してもいいですか？」と声を掛けて来られた。豊田母である。それまで、お愛想のように応援はしていた。それでこの後から一緒に応援するようになった。小西父がメガフォンを持って、声を張り上げていたような・・・。

本当に連日暑さが厳しい。フライパンの上？砂漠？森本父は短パン姿で日陰にも入らず、声を枯らしていた。足が顔が腕が真っ赤っ赤になっている。テントの下でも、どうにもならない程暑い。

それから、試合結果の投稿だが、何やら異常に早く、会場の発表と同時くらいにインターネットで掲載されているようだ。投稿画面を開くと、既に若山父が投稿していた。現地より早い。申し訳ないやら恥ずかしいやらで、次は負けないようにと、「息子が試合に出てないんじゃけぇ。投稿してぇ。」と頼まれる。ゴール間近になると投稿画面に順位の数字だけ残して待機する。・・・今考えると、この時はそれで良いのだが、なぜか国体でも私がしている。何故だ？この論理で行くと、国体では・・・・？

この後、子供達は先生に観光へと誘(いざな)われる。親は、どうしよう、どうしよう。先生から何か連絡があるかもと待つがご用は無かったので、さぁ、今からじゃ何処へも行けん。と、ホテルへ引き上げる事にする。吉野ヶ里も雲仙も伊万里もナシ。ホントは子供達も伊万里からお誘いがあって、伊万里牛が待っていたのだがお断りしたと聞いた。

初日から先生はホテルを出て飲みに行きたくてウズウズしていたらしい。チックリ、チックリ森本父をつついていた感があったと聞く。この夜、先生と共に呼子で烏賊を食べに出かける。街中で駐車場が少し離れ第 1・第 2 とややこしく手間取るが、いかにも民宿と食堂を兼ねた店に入る。階段をゾロゾロ上がって行った。10 畳ぐらいの部屋に入り、メニューを広げドリンクと思い思いの料理を選ぶ。烏賊の姿作り定食が売りにもかかわらず、私は刺身定食にした。ちょっと烏賊が苦手だったので・・・しかし、夫のをちょっと摘んだら美味しかった。新鮮な烏賊は透き通っていて、まだ動いていた。動くたびに表面の色が変わる。宴会の内容は試合の事、子供達の様子など、先生の話にみんなで耳を傾けていた。阿□□明の心理作戦など結構子供だましな事をするもんだ、と思う。

いい加減、話した頃「そろそろ」と仲居さんに促され帰ることにした。階段を降りていくと茶髪のおっさんが目に入る。・・・△▽監督だ。先生はちょろっと挨拶をし、みんなと外に出た。噂をすれば？である。そうか、☆潟はここに泊まってたのか。

先生をホテルに送っていくと、

「子供達の部屋に行ってみませんか？」と誘われる。

「シー！！静かに着いてきてください。」

本当にここはリゾートホテルかと思うほど、入り口からロビーまで各校のエルゴマシンが並び、外から見れば各部屋には洗濯物がカーテンレールに掛かっているのが見え、まるで合宿所に変貌していた。なぜかホテルが可哀相に思えた。

廊下をそ～～～っとゾロゾロ歩いていくと、他校のカップルがヒソヒソ・・・あ～～～青春やな～～～！その前を通り抜けると、部員に出くわす。

「しゃべるなよ！」

「内緒にしとけ！」

「おいっ！それから、部屋へ集合かけぇ。」

先生、いっぺんに伝えてあげんと右往左往しとるやん。

2 部屋ぶち抜いた和室に入ると、4 人の子供達の目が一斉にこっちを向く。驚いた顔と言うより、「何しに来たんなら！？」といった、怪訝な顔であった。大人数で部屋を見回す。きちっと布団をたたみ、傍に荷物をキチンと置いてる子もいれば、カバンの周りにグチャグチャとばら撒いている子もいる。ダンボールに入った飲料水が座卓の上に積み上げてあった。洗濯は当番を決めてしているのか、籠にこれから干そうとしているＴシャツがてんこ盛りになっていた。干し方にも性格が出ていて、シワをキチンと伸ばす子、ただ、引っ掛けてる子とあり。親の躾が見透かされたようで恥ずかしい。入り口に紙が張ってあった。『オ○○ー禁止・△三』苦笑いが起こる。子供達が全員揃ったところで森本キャプテンの挨拶を聞いて、ホテルを後にする。

8 月 11 日、準々決勝。

8 時 24 分　シングルスカル

1.岡山県　関西高校(岸本)・・・5 着

2.岩手県　黒沢尻高校・・・・・4 着

3.愛媛県　今治西高校・・・・・2 着

4.大分県　日田高校・・・・・・1 着

5.北海道　函館水産高校・・・・3 着

朝早くからご苦労さんでした。補漕の子は 4 時起きとか？「敗復回るけぇ、こんな時間になるんじゃぁ！」と、いじられる。先生も「大佑のせいで、でぇれぇ早よう起こされましたわぁ！」とひやかす。前日の会食から岸本母に、にこやかに「大佑のおかげで･･･」を繰り返す。昨日の怒涛のようなレースで燃え尽きてしまったのか、残念ながら敗退。

岸本母も昨日の応援でこの日の声はかすれて殆んど出ない状態。森本父も酷いかすれ声・・・。それでも、俺がやる！とメガフォンを放さない。根性の人となる。岸本父・宗也君が応援に駆けつけていた。昨日の試合を観てもらいたかった。宗也君は暑さでこの後グッタリとなる。対照的なのは 10 日に到着し、今日から応援参加する赤田妹・なみちゃんだ。この猛暑の中、土手の上と下を上がったり降りたりと繰り返して走り回っていた。･･

その元気を母ちゃんズにも分けてくれ―――！

ダブルは 15 時 24 分、それまでどーするー？

直ぐ後の試合、女子ダブルの応援をする。10 時からの女子シングル里さんを応援する。「さとー！では佐藤に聞こえるので、さーと！と応援しましょう。」森本父がみんなに声を掛ける。ダブルは小西父が担当する。2 人の愛称を聞きニックネームで応援するが、どちらも敗退。女の子達が次々と挨拶に来てくれた。里さんは選抜から応援していたが初めて間近に見た。

「今まで一度もお礼の挨拶をしていないと言うので連れて来ました。応援有難うございました。」

丸顔の先生が一緒に頭を下げていた。あ～、この先生か。昨日話しに出てきた。森川先生が監督の研修で一緒の部屋になった時､「いびきが凄いのを知ってたんで早く切り上げて先に寝たんですよ。▽△の監督は知らんもんだから、一緒に酒飲んで、あまりのうるささに切れちゃって、絞めてましたよ。そんで、2 度と〇大の先生、研修会に来なくなりました。」大人しそうに見えても人って分からんもんだ。寝てるときならなお更、本人だって分からないだろう。

しかし、な～んで、こう毎日毎日暑いのだろうか？・・・夏だから。陽炎(かげろう)が立つ。靴の底が溶けていきそうに感じる。干からびて汗も出ない・・これはウソ。エアコンの効いた涼しい所へ逃げたい！！

エアコンの効いた涼しいスーパーへ買出しに出掛ける。植田母はサラダを手にする。「さっぱりしたもんが食べたい。」サッパリし過ぎだろう、体がもたんぞぅ。ざる蕎麦に手が伸びる。冷麺に手が伸びる。つられて植田母も変更する。森川先生お薦め PARTⅡ『川島豆腐』を探し、見つける。4 人で 1 丁、計 3 丁のざる豆腐を籠に入れ、ついでに西瓜も購入した。昨日は岸本母にご馳走になったので今日は補漕の味野母・小西母が西瓜をご馳走することにした。暑さで頭が働かないからレジでボケをかます。財布が無い！！と青ざめた。「どこだー？」バックの中をかき回し、アタフタアタフタ・・・ついでの西瓜を取りに行った時に脇に挟んでいたのだ。探すのを諦め植田母に、とり合えず借りようと思った瞬間気がついた。二の腕のお肉が邪魔ぁ！？

オッズ熱は酷暑に負けていた。記録は記入するが、思考は停止してしまっていた。

15 時 24 分　ダブルスカル

2.岡山県　関西高校・・・・・・2 着

3.青森県　青森高校・・・・・・1 着

4.広島県　宮島工業高校・・・・4 着

5.長野県　諏訪青陵高校・・・・3 着

ミラクル！！と騒がれた試合だ。何がミラクルかというと、スタート出遅れ、500m までビリ、ここで終わりか？とみんなに思わせたが、何と！抜いて抜いてあれよあれよ

とトップに追いすがって行く。こんな胸をすく「オ――――！」と声が出る試合は無かった。差したか？差したか？判定がなかなか出ない。興奮は高まっていった。ゴール地点で観戦している母ちゃんズに電話するも、誰も分からない。・・・コンマ 26 差まで詰め寄って行ったが 2 着となる。まさに、トップボールの差である。準決勝進出。

この日の試合は、徳本母・岩崎母にとって高校生活 3 年間で最も輝いた息子の姿ではなかったろうか。2 往復して来た甲斐があって、本当に良かった。本人達にとっても 1 番の思い出となったであろう。

15 時 56 分　クォドルプル

2.青森県　青森中央高校・・・・2 着

3.福島県　喜多方高校・・・・・4 着

4.岡山県　関西高校・・・・・・1 着

5.京都府　伏見工業高校・・・・3 着

割と安心して観た。最後までトップを守り抜いてゴールする。

この日の宴会？夕食は皆と別行動にさせてもらう。お酒の飲めない小西父が夜行バスと応援と暑さで居酒屋は・・・。さらっと済ませて、ゆっくり休む。皆は、なんの話で盛り上がったのかな？

8 月 12 日(日)最終日、準決勝。

いつもいつもいつも！！いつも最終日は天気が荒れる。選抜にしろ、朝日にしろ、今回も！！強い風が吹く。テントが倒れそうになる。午前中の試合ではシングル女子が強風にあおられてレース終盤で『沈』するし、9 時 28 分の男子クォードでは、宮城の石巻高校のオールが 500mあたりで高くなった波に負けたか折れてしまい、目の前をゆっくりと、唇を噛み締めながら通り過ぎるのを見た。宿敵、美方高校は阿賀黎明・柳を下し、決勝進出を決めていた。強いチームは何があっても強いのだと思った。条件は同じ、文句は言えない。言い訳も出来ない。

10 時 56 分　ダブルスカル

2.愛媛県　今治西高校・・・・・4 着

3.岡山県　関西高校・・・・・・2 着

4.宮城県　石巻工業高校・・・・1 着

5.青森県　青森高校・・・・・・3 着

この試合もある意味ミラクル！！予選で負けた今治と準々決勝で負けた青森高校と再度ぶつかるも、勝ってしまうのだ。何という底力！！何が彼らを変えていったのか？予想をひっくり返された応援団は歓喜に沸く。やっぱりお犬様のご利益(りやく)があったのだ。

11 時 28 分　クォドルプル

2.千葉県　小見川高校・・・・・1 着

3.埼玉県　南稜高校・・・・・・3 着

4.大分県　日田高校・・・・・・4 着

5.岡山県　関西高校・・・・・・2 着

まさか・・・小見川に負けるなんて・・・。子供達もショックだっただろう。

お昼休憩をする。「今日は何食べよー？」エアコンの効いた涼しいお店がみんなの希望。車で走れば何かあるかも、と・・・うどん屋みっけ！『ウエスト』チェーン店だ。元気におでんまで食べる人が！凄い！！隣の敷地に和菓子屋を見つける。純日本家屋の高級感漂うお店。帰りはここに寄って、お土産を買うことに決めた。

会場に戻ったが、未だ少し時間があるので夫とデート？する。森本号を借りて唐津ロイヤルホテルにお茶しに行く。子供達も一旦ホテルに戻り、昼食を済ませ再び会場に戻る為、丁度、鬼火弾号に乗り込むところだった。気付かれないように離れた所に車を停めた。出発したのを確認してホテルに入る。1 階のレストランでコーヒーを頼む。お腹の具合と相談した結果、ケーキセットは無理と判断した。ここにも大画面で液晶テレビが壁に張り付いていた。スタッフにお願いして、チャンネルを替えて貰う。勿論、ケーブルテレビのボート競技だ！！・・・応援でなく観戦なら、ここにズ――――ッと居るのに・・・。

順位決定戦

13 時３2 分　ダブルスカル

2.静岡県　沼津東高校・・・・・1 着

3.岐阜県　東濃実業高校・・・・3 着

4.神奈川県　津久井高校・・・・2 着

5.岡山県　関西高校・・・・・・4 着

既に、緊張が緩んでいた。今治に勝った事で満足してしまっていた。おまけに、負けても表彰台に立てると、勘違いしていた。〇野に指摘されるまで気が付いてなかったと聞いた。しかし、彼らは良い笑顔だった。人それぞれ。2 位でうな垂れるチームもあれば、3 位でガッツポーズをするチームも有る。小見川は 4 位で嬉しそうにしていた。

13 時 48 分　クォドルプル

2.秋田県　由利高校・・・・・・4 着

3.兵庫県　柳学園高校・・・・・1 着

4.岡山県　関西高校・・・・・・2 着

5.広島県　宮島工業高校・・・・3 着

柳と一騎打ちになるとは予想していた。しかし、2 秒以上の差になるとは。

表彰式を見る。クォード 6 位、ダブル 8 位。

ダブルスカル	クォドルプル
1 位　敦賀工業高校	1 位　美方高校
2 位　高島高校	2 位　江津高校
3 位　石巻工業高校	3 位　西市高校

インハイ優勝すると賞状にメダルにとクルー全員でやっと持ちきれる程の副賞があるのに驚く。でも、三村・草地を欠いたチームで良く頑張ってきたと思う。北京から帰ってきた三村が「みんな進化していた。強くなっていた。」と口にしてくれた。そう、みんな三村・草地が帰って来た時に国体を一緒に漕ぐため､少しでも差を縮めたいと頑張っていたのだ。

時を同じくして、この二人も北京で頑張っていた。速報が草地母よりメールで岸本母に届くので情報は入っていた。それに加えて、若山父がパソコンの前から随時投稿してくれていた。英語の先生なので苦も無く訳してしまうのだろう。私は日本ボート協会のサイトで英語がズラッと並んだだけで閉じようとしてしまう。

帰路に着く。行きと帰りはメンバーが変わっていた。味野号に味野母・岸本母・植田母・徳本母・安田母・小西父母、運転は唯一の男性小西父に任せる。岸本号には父・弟の 2 人。味野号の運転を小西父一人にさせるのは申し訳ないと岸本母はこちらに乗ってくれたが、無事一人で乗り切り、岡山近くで岸本号に乗り換えた。森本号には森本父母・岩崎母・赤田母妹。千葉号は夫妻で。相談した通りに松露饅頭を買いに寄り、途中チャンポンを食べ、博多を通った事を認識する。そうそう、植田母チャンポン食べ過ぎで岡山まで最後部座席で薬を飲みじっとする。胃の許容量の違いだろうか？同じ物を同じだけ私も食べた。細い人は細い理由があるものだ。太い人は太い・・ほっといてくれ・・・。私の携帯に長男から電話がかかる。あれほどお願いしておいたのに、観葉植物に水をやり忘れたと言う。帰って、瀕死の植物にガックリくる。徳本母も大変だったと言っていた。男二人残していた為、居間と言わず台所まで、ゴミと洗い物の山が出来ていたらしい。こちらもグッタリくる。

子供達は博多で 1 泊したという。しこたま屋台のラーメンを食べて帰ってきた。替え玉 3 回？COX なのに・・・▽崎はもっととか・・隣のおっちゃんに話し掛けられ、インハイで 6 位と 8 位になったと話したら「凄い！」と褒められ「支払いはこれでせぇ！」と小遣いを貰ったとか・・・。そんな所で運を使うなよ・・。お犬様のご利益に〇西ものっかる。

ひとつひとつ試合が終わり、3 年生にとって、国体を残すのみとなる。色んな事が、今

まであった。天気のせいにも世界選手権のせいにも出来ない。全国大会で 1 つの優勝も決められていない。その現実からは逃れられないのだ。『今年は・・・・』と、言われながらも頑張ってきた。もう、後が無い。国体はベストメンバーで臨める。それだけを心に刻む。

この大会以後、無冠の帝王とか、無冠の王者と呼ばれるが、微妙な気持ちだった。森本父のインターハイの感想が『2007 漕跡』にある。

≪世界 Jr.大会　in 北京≫
ダブルスカル・・・18 位　　草地
クォドルプル・・・9 位　　三村
詳しくは『2007 漕跡』に草地父・三村父が投稿した文章が掲載されている。

北京での笑い話を聞いたような・・・？
三ツ星ホテルで草地父が風呂に入った時のこと。シャワーの先端が外れ、水が止まらず助けを求めて「お母さん！お母さん！」と呼び続けるが、草地母は一緒に入ろうと誘っていると勘違いし、無視していた。が、余りしつこく呼び続けるので、風呂場のドアを開けると、そこには・・・裸でバスタブの上に立ち、シャワーの先端を手で抑えている、夫の姿。「お母さん！10 円玉！！」・・・必死で直すのであった。・・・これが中国の三ツ星や！！

やはり、北京の三ツ星ホテルのレストランで、三村・草地家の夕食。三村父のビールの泡の上にハエがとまる。底なし沼のようにハエが沈んでいった。日本なら、交換しろ！と文句を言うが、そこは中国。新しいのを持ってくるが、しっかり伝票には 2 つ分付いていたのである。それ以上言葉の分からない国で抗議しないのが日本人らしい。

三村家のエミちゃんが可愛くて可愛くて、草地父は隣に座って喜んでたら、「グッチいつ買ってくれるのぉ？」とからかわれたとか・・・・。日の丸を百均で買って応援しようとしたら、棒がついてるとセキュリティチェックにかかったので次の日は棒の部分を千切って持って行ったとか・・。前日まで OK だった望遠が、決勝では駄目だと言われたとか。

笑い話ばかりではしょうがないので、真面目な事も少し。
各国のオールには其々の国旗がデザインされていた。日の丸がオールを反す度に見え隠れする。日本代表に選ばれたと改めて実感。そして、電光掲示板に JAPAN と息子の名前が出た時には、鳥肌が立つぐらい感激したそうだ。

国体の巻

泣いても笑ってもこれが最後。

このお話は出発前から始まる。子供たちが民泊すると聞いたからだ。そして、その交流は今も現在進行形で続いている。今は息子の学費で余裕も無いが、出来ればもう一度行ってみたい。あの広大な平野、真っ直ぐ伸びた道。仕事で応援に来られなかった夫に見せてやりたい。一生に一度しかないあの感動は、もう二度と経験する事はないだろう。大学で優勝したとしても、あれほど晴れがましく母ちゃんズ皆で涙を流し抱き合うほどの感動はないだろう。

国体に先駆けて、強化合宿があった。これまでの関西の活躍で県からの補助が受けられた。これも、16・17・18 年卒の先輩方のお陰である。もしかしなくても、19 年組はとっても恵まれていた。学校からの部活動に対する予算も削られていない。良いとこ取りをさせて貰っている。大変有り難く感謝が絶えない。また、そのお金を自分達だけで使わないところが大変見よいのだ。国体出場のボート選手全員で合宿に行くのだから。男子校では絶対に無い男女交えての出発であった。

出発は、百間川艇庫。次々と子供を乗せた自家用車が集まってきた。そこここで、挨拶と世間話が始まる。出発予定時刻の 30 分前には全員そろいバスに乗り込んだ。・・・いや、まだ一人足りない。1 台の見慣れた車が無い。

「未だ時間があるし・・・」

「そうそう、遅刻は無いわ。」

「さすが！　将軍様待ちやね。」

母ちゃんズは尊敬を込めて、森川先生を陰で『将軍様』と呼んでいた。先生の一声で、子供達が動くからでもあるが、皆一様に言うことには、

「携帯に誰から掛かってきたか直ぐ分かるわぁ。」

「そうそう、寝っ転がってテレビ見てても、ガバッと起きて居間から出て行くでしょ。」

「うちもそうよ。友達からだと、あー。あー。ってだるそうに返事しとるのが、はい。はい。って」

「あれぐらい親の言う事も聞きゃあえぇのに。」

子供達は、親しみを込めて、時々家では「あのおっさん」と呼んでいた。まてよ、うちだけかも？

出発 10 分前に、1 台の車が滑り込んできた。

「御大のおでましや。」

車から降りた先生は荷物を抱えて、

「あれぇ～？僕が一番最後ですかぁ～？」

「いってきま～～～す。」

と、元気良くバスに乗り込んだ。

よく、旭川にも通った。仕事の帰りに、休みの日に。1つ上の保護者の方は現役時代「来るな！」と言われていたらしいが、なぜかこの年は「練習を観に来てやって下さい。」と言われた。子供の特性を考えてのことと勝手に思っている。むしろ、暫く行けないでいると、息子が「先生から伝言。明日、親が観に来んかったらボウズって言われたけぇ、ぜって一来いよ。来れるんか？」仕事帰りに立ち寄ったのは言うまでも無い。それからは、ちょくちょく観に行った。秋田へ出発間近の頃には、勝利の雄叫びの練習までしていた。新京橋の橋桁(はしげた)付近で立ち上がり、人差し指を突き上げた。観ていたこっちまでもテンションが上がり、なんだか本当に優勝している気にさえ成り、思わず拍手をしていた。

9 月 25 日に、国体選手団の壮行会が桃太郎アリーナで行われた。植田母・草地母と 3 人で見に行った。初めて岡山県団の桃の付いたジャージ姿の子供達を見る。目指すは、**『秋田での四連覇！！』**

国体クルーは 10 月に入って直ぐ秋田へと出発した。新幹線で岡山から仙台へ、そこから秋田まではマイクロバスを借りて行くという。見送りに行った。OB 保護者も何人か来てくれていた。期待の大きさを感じると共に出発時間を知るために、わざわざ 3 年保護者に電話で問い合わせたのだろうか、有り難い事である。ホームでエールを送る。周りのサラリーマンが何の集団だ？といぶかしげに見ていた。

新幹線の中では、もちろん勉強をする子はいない。食うか喋るか、マンガを見るか携帯をいじっているかだろう。先生も「弁当しっかり食えよー。」と言うぐらい。待ち受けているものが何かを知らずに弁当を鱈腹(たらふく)食べたらしい。先生も結構意地が悪い。

仙台で待っていたのは、・・・牛タン食べ放題！！食べ放題と言っても、そこらの 1 人いくらの店では無い。とっても美味しいレストランで仙台名物本物の牛タンだ。厚切りのステーキを連想させる仙台の牛タンをしこたまご馳走になった。いったい何皿食べたのだろうか？弁当を食べていなかったらとんでもない事に成っていた様な・・・。秋田に向かうバスの中で気持ちが悪くなって、休憩ばかりして、到着が遅れたと聞いた。・・・赤○君しんどかっただろうな・・。うちの息子も「暫くは牛タン見るのも嫌だ。」と言っていたが、心配はいらない。我が家の食卓に牛タンが登る事は絶対に無い。それが、一月もすると「また、食べてぇなぁ」とこぼすが、食卓には出るはずがない。焼き肉屋で薄くスライスされたタン塩を注文するぐらいだ。

秋田に着くと、入村の手続きやら説明やら聞いたあと、お世話になる民泊家庭にご挨拶をした。3 軒に分かれての民泊、内訳は次の通りだ。

菅生家	森川監督・長浜コーチ・三村敏玄・小西淳介・千葉貴司
山口家	植田義之・草地一真・安田隆一・赤田喬昭
柏家	森本健治・味野聡

各御家庭には宿泊先が決まったときに各個人で電話をしていた。親も何か挨拶をとそれぞれのグループで挨拶状をしたためていた。挨拶、ちゃんと出来るだろうか？部屋を汚さんだろうか？敬語は使えたっけ？心配がてんこ盛りだった。このグループ分けもダブル 2 人はまとめてと、理解できるが、面白い組み合わせだと思った。

民泊家庭との交流は『えがった潟の宿　民泊の思い出集』に書かれている。これは、森川先生が菅生さんから送られてきたのをカラーコピーして卒業式の受付で、国体クルーの保護者に配ってくれた。民泊家庭の感想と写真、先生・生徒・父兄が送ったお礼状まで掲載されている。泊まるだけと決められていたそうだが、昼食も夜食もミーティングの場所もしっかりお世話になっていた。良いお宅に恵まれたと感謝している。

さて、母ちゃんズも出発まで色々あった。味野号は味野父が早くから運転して行くぞ！と心に決めていた。運良く、声を掛けてもらえて私も便乗させていただけた。それまでは飛行機？寝台特急？何が早くて何が便利で何がお得？と悩んでいた。宿泊先も大変だった。秋田のホテルはどこも予約が出来ない状態で、これでは行っても車中泊か？とみんな不安になっていた。毎日、パソコンチェックをしてくれたのだろう。味野家がしっかり同乗者分を探し出し、予約してくれた。森本家と草地家は飛行機で飛んでくると聞く。「リッチ～～～！！」しかし、車が無いのは大変不便なのでは？レンタカーがあるじゃないか！！「やっぱり、リッチ～～！！」仕事の都合もおありだろう。私も「飛行機でとんでくれば？」と夫に言ってみたが、「着いたら直ぐ帰らんといけんやろ！」確かに来ただけで何も観ずに戻る事となる。可哀想に・・一生に一度の息子の晴れ姿を見逃す事になった。

10 月 3 日(水)午後 10 時、岡山駅前で安田母と 2 人拾ってもらう。今回味野号には、味野夫妻・植田母・安田母・小西母の 6 人で出発した。1300ｋｍの長旅であったが、楽しかった。味野父はトイレ休憩を考えて、小さな S.A へ寄ろうとする。空いているから。しかし、味野母は大きな S.A に寄りたいと言う。色んなものが置いてあって楽しいからだ。S.A 巡りをしながら高速道路の旅は進む。途中で運転を交代しようか？と味野母が声を掛けるが、決してハンドルを渡そうとしない。味野父、根性の人となる。

関東周りにするか、日本海側を行くか迷ったようだが、日本海側を行くことになった。北陸自動車道を上る。しかし、この高速は新潟の先で止まってしまう。山形を過ぎれば、もう秋田なのに・・・。磐越自動車道を福島に向けて進み、仙台から秋田自動車道に乗った。大回りである。気分的には新潟が半分に感じるくらい、その先が長く感じた。

夜は更け、空が白みだし、朝が来た。流石に味野父は疲れたのか、後部座席で仮眠を取る。運転は味野母が代わった。それを心配して、植田母が助手席に座る。約３時間、最高速度 140ｋｍを時々？出しながら、トラックの合間を縫うようにして、ひたすら走った。最初はトラックに囲まれ怖かったが、スリルを楽しんだ？かも。今回、車内での BGM は徳永英明の女性シンガーのカバー曲。なじみの深い曲ばかりである。インハイではコブク

ロなどボートを意識した局が多く、会場に着くまでにはアゲアゲモートになっていた。きめの細かい演出である。しゃっべっていたのか、寝ていたのか、顔を洗い、化粧をし、朝食を摂る。まだまだ、秋田は遠い。どの辺だったか、秋田国体のTシャツを着た男性に出会った。秋田が近いのかな？と思ってしまったが、どうやら違うようだ。アーチェリーとか言ってたような？？

味野母は『ぬれせん』好きだ。小袋に入った3種類のぬれせんを買う。車の中でおすそ分けをしてくれた。岡山のスーパーで買う物と全然違ってとっても美味しい。1人1個ずつ取ると、2個しか残らなかった。1袋300円、高いせんべいである。栗を見つけた。縁起を担いで『勝栗』私が買うと、半分出させてと味野母。今回はインハイと違い二人とも我が息子が出場するので何だって担ぎたいのである。

高速を降りてからも結構な道のりだ。カーナビだけが頼りだ。有料道路をおりる。町中？両脇に店が連なる。ファミレスもある。暫く行くと、大きな『なまはげ』がそびえ立つ。はじめて、「着いた！」と感じた。あとは、ボート競技場と書かれた看板を頼りに進む。田んぼの真ん中の細い道をただただ真っ直ぐに進む。あるのは田んぼと電信柱、遠くに家が見える。大潟村のボートコースに着いたのは14時30分頃。駐車場に車を置き、歩き出す。福井のバスが停まっていた。窓にNHK朝の連ドラの広告が貼ってある。次回は福井が舞台なのか？・・『ちりとてちん』だ。艇置き場、本部席、観客用のテント、Tシャツなどのショップ用のテントを過ぎて、750m地点を確認。明日はこの場所で応援しようと決める。入り口から道沿いに、ずらっとノボリが立ち並んでいた。各県への応援メッセージが一言ずつ書かれ、マスコットの『スギッチ』が笑っている。この日の感想は掲示板に投稿した記憶がある。「福井のバスが・・・お前らなんかに負けないぞ！！」とかなんとか。みんな疲れている。秋田駅前のホテルに向かった。

この日の晩は、勿論ホテル近くの居酒屋。何を食べたのか記憶が無いが、冷酒を飲んだ。メニューに『飲み比べ』と有り、3種類の地酒が上品なビアグラスに注がれ枡に乗っかって出た。口に合うの合わないのが有るので、残った酒を誰かに飲んで貰おうと、植田母が皆に勧めていた。隣におじさんの団体がいた。何かのきっかけで話をする。彼らも国体に出たと言う。

「何の競技ですか？」

「ボートです。」

「？？？ボートを漕がれるんですか？？」

私たちが漕ぐのだと勘違いしたらしい。どう見ても漕げないだろう？筋肉も無いし、年も年だし、あるのは贅肉？？

「息子の応援です！！」

おじさん達は酔った勢いで

「僕らもう終わったんで、明日は応援しに行きますよ！」

はいはい・・・。ウソだと、お愛想だと分かっていても
「ありがとうございます。お願いします。」
と返事をしておいた。大潟村まで？縁も興味も無い人が？ナイナイ絶対ナイ！！
　このお店では、観光客相手に時間を決めて、『なまはげ』に扮した店員が
「泣く子はいねがー！！」
と登場する。お客は大喜びで携帯・デジカメを取り出す。店内を一回り巡って引っ込もうとする『なまはげ』を引き止め並んで記念撮影したのは、私達だけではない。ほどほどにして引き上げる。ホテルから会場まで有料道路を通らなくてはならなかった。つまり、遠かった。ようするに朝が早いのできっと、お利口サンで、すぐ寝た。何と言っても、会場の近くには田んぼしかない。後で聞いたがコースは川ではなく、農業用水を国体のために広げたと言う。駐車場も観客席・通り道まで村民総出で草刈をし、整備をしたと聞いた。

8 月 5 日(金)、予選
　朝は未だ薄暗い内にホテルを出た。今日の試合は早く、ダブルが 8 時 38 分スタートだった。早めに行って上がるのも見んといけんし、横断幕も張らないといけん。今回は車が 1 台なので、極、最小限の応援グッズしか持ってきていない。ノボリも数本だけだ。早朝の有料道路は ETC プラス早朝割引で、でぇれぇお得だった。
　ここで、森本父、草地母と合流。昨日の飛行機が偶然一緒だったと言う。徳本母も羽田まで一緒だったが、秋田行きと青森行きに分かれた。ホテルのチェックインで夫婦と間違えられ困ったと、「ツインじゃなくて、シングル 2 つです！！」草地母が笑いながら話す。
　応援準備を進めていると、子供達がお世話になっている山口さんの奥様が私達を見つけて挨拶しに来てくれた。「はじめまして・・・。」「お世話になっております。」と自己紹介をしながら御礼を述べる。「小西の母・・・」笑いが込み上げている。はて？？
「福井のバス・・・。」
と、呟く。掲示板をしっかり見られていた。先生ってば、もうアドレス教えてたのねん。初対面なのに相手は違う感覚になるみたいだ。面白い。
　ご近所の方だろうか、おばちゃんがゾロゾロとスギッチのノボリを抱えて応援に来ている。
「あらぁ、おはよう、どこにしようか？」
と山口さんに挨拶していた。ノボリには『福井』の文字が・・・。とっさに私は
「隣はちょっと・・・・。出来れば、離れた所で・・・お願いします。」
山口さんは笑いをこらえてる風であった。

8 時 38 分　ダブルスカル予選
1. 青森県　田名部高校・・・・・4 着
2. 埼玉県　埼玉選抜・・・・・・3 着

3. 愛媛県　愛媛選抜・・・・・・1 着
4. 岡山県　岡山選抜・・・・・・2 着
(S 森本健治・B 味野聡)

2 上がりで準決勝進出。愛媛はあの西村君(宇和島水産)と奥嶋君(今治工業)。どうもこの西村君はダブルにとっていつもネックになる。

9 時 50 分　少年女子クォードを応援する。3 着で残念ながら敗復に回る。応援するのが当たり前になっていた。

10 時 6 分　クォドルプル予選
1. 徳島県　徳島市立高校・・・・4 着
2. 岡山県　岡山選抜・・・・・・1 着
(C 小西淳介・S 三村敏玄・3 植田義之・2 千葉貴司・B 草地一真・補.安田隆一)
3. 北海道　北海道選抜・・・・・3 着
4. 宮城県　石巻工業高校・・・・2 着

スゴイ試合だった他の追随を許さなかった。見事なタイムを打ち出した。予選から決勝まで全てのレースにおいてのトップタイムだ。3 分 07 秒 54　国体に賭ける意気込みが爆発したかの様だった。

国体は岡山代表という括(くく)りなので成人男子も応援する。もっとも関西OBなのだから当たり前と言えば当たり前。

成年男子舵付きフォア(C 小林直矢・日本大学)・・・2 着　準々決勝へ
成年男子ダブルスカル(S 増成秀規　龍谷大学・B 宗正亨　立命館大学)・・1 着準決勝へ

この夜は、何と！！菅生さん山口さんからお食事のお誘いがあった。歓迎会を開いてくれると言われた。お土産も車に積んで来ていたので、伺うつもりではいたが、まさかご招待されるとは！！しかし、すごい人数になるけど大丈夫？親だけでも 10 人になるぞぅ？子供がえ～～～～っと 9 人、コーチが 1 人、監督が 1 人で、全部で何人？・・・・こうなると、どんな家だろう？と考えてしまう。

写真の格好を見ると、そのままお邪魔している様だ。ももっち T シャツあり、関西 T シャツあり。この格好では！と車の中で、とりあえずソックスを履き替え、靴を履き替えた。岡山の感覚では大農家といえば大きな家が田んぼの中にポツリポツリ建っていて、隣まで 10 分とか 30 分かかるイメージが有るが、秋田は違う。ただひたすら田んぼが続き、住宅はきちんと区画整理された団地になっていた。それも 1 区画が大きい。半端無いほど。200 坪？？もっと？？

団地内にはノボリが立っている家が見受けられた。それら全てが民泊家庭だった。どの家もでかい！！県名が書いてあるので、ここが岡山と直ぐ分かる。

菅生家の純和風の門を入り、和風のお庭を見、玄関に入る。花も綺麗に活けられていた。全員の履物が確かに並べられる広さだか、家自体は新しい。決して、藁葺き屋根の庄屋様の家を想像しないで頂きたい。むしろ、現代風の家だ。居間はフローリングで天井は高く、台所と続いていてアイランドキッチンだ。人の家の描写を細かくするのもはばかられるのでこれぐらいにして置くが、ただ、グランドピアノが置いてある部屋に子供達の洗濯物が山の様に干してあった事だけは申し訳なく思ったと書いておきたい。

さて、菅生さんの山口さんのご主人にも皆でご挨拶をしたが、私の時だけはやっぱり「あぁ」がくっつく、いったいどうゆう風な印象を持たれているんだろう。気になる。菅生父が秋田での子供達の写真を沢山撮ってくれていたのを見せてもらう。親でない人のカメラだと何故にこんなに生き生きと写っているのだろう・・・。

子供達には、ここに親が来ている事を知らせずにいた。先生の悪戯である。菅生母が「みんな自分のうちに帰ってくるように“ただいまー！”って言ってくれるのよ。」ふ〜〜ん。ただいまって言うのか・・・。うちでは言わんぞー！「腹減ったー。」とか「あっちーなー。」酷いときは「氷の入った冷たい麦茶ぐらい入れて“お疲れ様”とか言ってくれんかなぁー。気がきかんのぉ」いったい何様？そういう台詞は結婚してから自分の奥さんにお言い！！

子供達が帰ってきた。ひょこっと顔を出し、見慣れた保護者が居るのを見て取ると、引き返していく。「ただいまー」とは言ってくれない。照れていると言うより、やっぱり「何でここにおるんじゃぁ？」という感じだ。しかし、居間に入るしかないので、ドヤドヤと入ってきて「どもっ」「ちわっ」声にならない声で頭を前に突き出す。

全員揃ったところで乾杯する。ビールで喉を潤した後、日本酒の登場。やっぱりこうでないと！米どころ秋田に来た以上、地元のお酒が一番だ。私は、許容量は少ないが、味に関しては好奇心おおせいだ。今までにも、銘酒と聞けば一口舐めたいと、よく試飲させてもらってきた。最初のお酒は『ひやおろし』さっぱりと喉越しが良く、癖の無いお酒だった。新潟で言うなら『越の寒梅』と言ったところか。水のように飲めてしまうので注意しないと・・・。次のお酒は山口父お薦めの『わだち』。こちらも飲みやすい。さらにコクが強い。『寒梅』に対する『峰の白梅』と言ったところ。更に、何と言っても料理が美味しい。枝豆・サラダ・トマトまで、野菜がめっちゃ旨いのだ。いつもなら、付け合せ・彩りぐらいにしか思ってなかったトマトを一人で何個食べた事か。

そして、秋田と言えば『きりたんぽ』本場のきりたんぽを食す。比内地鶏のだしでとったスープに野菜・鶏肉・きりたんぽを入れていく。作り方も教わった。もち米とうるち米を半々で炊き、半分つぶして棒に巻き、火に炙って出来上がり。しかし、一般家庭では『だまごもち』を入れるそうだ。作り方は途中まで一緒だがこれは、丸めて出来上がり。これなら我が家でも出来そうだ。・・・米が違うけど・・・。おはぎの要領でOK！実はこの冬

二度ばかり自宅で作ってみた。比内地鶏ではないので、スープにコクが足らないが結構ウケタ。他にも海の幸が飛び出し、みんなで舌鼓を打ちまくった。あんまり美味しかったので料理の話ばかりになってしまったが、飲んで食べてばかりいただけではない。ちゃんと一人ずつ挨拶もした。私の挨拶の締めは確か「仕事で主人は応援に来られませんが、伝言を聞いて来ています。“お土産は何も要りません！優勝の二文字だけで良いです！！”とのことでした。」結構うけてほっとして終わった。「おぉ！かっこえぇ〜〜！」と歓声も頂いた。しかし、もっと、爆発的にうけた挨拶があった。千葉父だ。もう既に酔っ払っていて、息子はちょっと嫌がっていたが、やらない訳にはいかない。最初は普通の話だったが、段々自分でも訳がわからなくなってきたのだろう。
「皆さん頑張って元気に・・・むにゃむにゃ・・・丸大ハム。」
一瞬みんなの頭の上に？？？マークが飛んだが、そのあと大爆笑が起こった。子供達がそんな昔のＣＭを知っているとは思わないが、親の年代にとっては、懐かしい CM だ。その後、卒業まで丸大ハムはブームになる。実際、卒業の一言コメントに植〇が書いていた。ボート部だけのヒ・ミ・ツの言葉である。故に、千葉父のことを親しみ込めて子供達は『丸大ハムのおっちゃん』と呼んだ。

まだまだ話は尽きないが、遅くまでは失礼なので、そろそろ引き上げる為、重い腰を上げた。片付けをみんなで手伝い、歓迎会のあと森本母を迎えに行かなくてはならなかったせいでアルコールをオアズケになっていた、森本父と味野父と今日参加できなかった草地父にとペットボトルに日本酒を入れてもらった。この辺の図々しさは、さすがにおばちゃんでないと出来ない。

名残惜しいが、会場でも会えるのでお開きにする。そう、民泊家庭の中にはボランティアで会場でのお手伝いをしてくださっている方が多いのだ。菅生夫妻もされていた。

帰り際、〇村に声をかけられた。息子の仲間から「おばちゃん」と声を掛けられたのは初めて。ビックリしたけど興味津々で聞いた。秋田に来てから掲示板に『恋するスーパーマン』1 号・2 号と称して興味深い内容の文章が載っていた。続けて投稿しても良いかと尋ねてきたのだ。もちろん OK！もっと知りたかった。

夜の大潟村をひたすら走る。外灯も余り無く、道幅もそんなに広いわけで無く、右手に植木が林立しているのがやっと分かる。行けども行けども真っ直ぐな道がひたすら続く。別世界へ連れて行かれるようだった。このまま『銀河鉄道 999』みたいに夜空へ吸い込まれても可笑しくなかった。

10 月 6 日、

お陰様で、関西クルーの敗復は今回無かったので、子供達は、山口さんに案内してもらい、観光に行った。親はと言うと、岡山県応援団として、朝から観光に行って良いものか？と、ちょっとだけ応援に行く。

9時16分　成年男子シングルスカル
　岡山県　福田哲也・・・2着　準決勝進出
11時40分　少年女子クォドルプル
　岡山県　岡山選抜(岡山東商)・・・2着　準決勝進出
13時48分　成年男子舵付きフォア
　岡山県　岡山選抜(小林直矢)・・・3着　敗退する

申し訳ないが全てを応援してはいない。折角の秋田観光、しない訳にはいかない。秋田なんて来たいと思っても、次があるかどうかも分からない。

男鹿半島に来たのなら、『なまはげ』は必ず会いに行かなくては！なまはげ館に向かう。「悪い子、いねがー！」迫力あるなまはげのお芝居にびびったり笑ったり。神社も参拝する。絵馬にみんなの名前を書いて奉納した。植田母と草地母がなまはげのお面を被り写メを撮った。すぐさま投稿する？写真添付の仕方が分からない。機種が違えば操作も違うので、誰に聞いても？が返ってくる。あちこちいじくり回して、やっと投稿できた。「だ～れた？」のコメントに答えてくれたのは、若山父。皆でビックリする。若山父のおちゃめな部分を発見。

今回のお土産は、初めてのリクエストが有り、『わっぱ』を探す。大館市が本場なのだが、遠いので行けそうに無い。近場で探す事にする。高速でご馳走になった『ぬれせん』を見つけ、何人か買った。

入道崎に行く。日本海の素晴らしい眺めが横たわっている。崖の間際まで行ってみる。下からのアングルで味野父が写真を撮ろうと、崖を降りていく。みんなで危ないからと止めるが、どんどん降りていった。もし、怪我でもしたら大変な事になる。応援どころではない。止めながら考える。やっぱ旦那様は健康で長生きして欲しいよな。出来れば元気で第2の人生も頑張って働いて欲しいし、そんで、年金は払い損にならないくらい、しっかり貰いたい・・・やっぱり女は怖い？

お土産屋も入ってみた。私の狙いは『いぶりがっこ』秋田のお土産はこれしかないぐらいに思っていた。試食できるものは全部するが、気に入らず。アイスクリームのケースの中に『ババヘラアイス』を見つける。そういえば、昨日、森本父が旨そうに食べていた。しかし、やはり、ババがヘラを持って売っているのが良いと辞めた。

岡山選手団のジャージを着て、左目の周りにマンガみたいな青丹を作っている男性を見かける。

「岡山からですか？」

「はい。あの・・・」

「私たちも岡山の応援に岡山から来てるんです。」

彼は、ボクシングの選手で昨日負けてしまったのだそうだ。でも、先輩が残っているので応援に回ると言う。関西高校だと言うと、先輩も関西なんです。と言っていたから、もし

かして・・・あの時ボクシングの知識が無かった。もしかしたら、先輩って清水君？？
　今夜の宿泊のホテルに向かう。秋田駅前のホテルではない。温泉だ。森本家・草地家の宿と１日だけ合流する。ちょっと？宿泊費が高い。へへへへ・・・・今夜も大宴会が始まるのだ。
　子供達の観光ルートは、ほぼ同じたった。一足先に回っていた。違うのは寒風山に上がり秋田平野を一望していた。それを聞いて、明日の準決勝の後、私たちも行ってみようと話していた。

　旅館の部屋は、夫婦は一部屋ずつだが、寂しいシングル組みは一緒だ。植田母・安田母・徳本母と相部屋になる。徳本母は実家が青森なのでわざわざ国体に合わせて里帰りし、その足で応援に来てくれていた。本当に自分の息子が出る出ないに関わらず、都合がつけば関西の応援を皆でするのが当然に成っていた。ありがたや、ありがたや！！よう、こんな遠くまで・・・。チェックインする時、草地夫婦がどこかのご夫妻と話をしていた。「誰？」と聞くと、栗原君(現・日大)のご両親だとか、親子でご宿泊だそうです。振り向くと、歓迎の看板に名前があった。納得。
　宴会までお風呂に入る。みんな NiceBady？やっぱり温泉は気持ちがいい。森本母は顔にホワイトクリーム(美白クリーム)をたっぷり塗っていた。用意周到である。感心感心。徳本母が語る。「後ろ姿だったんだけど若い人も温泉に来てるんだな。と思ったら、植田さんじゃった。」
　さあ、いよいよ宴会が始まる。地下の宴会場の一室で、温泉旅館に出てくる定番のお料理を肴にビールと日本酒をボトルで注文する。仲居さんがそこそこ料理を運んだのを見計って、
「後は、自分達で適当にしますから、その辺に置いといて下さい。」
と森本父が仲居さんを上手に追い出した。
　なぜって？ふふふっ・・だって、昨日菅生さん家で頂いた日本酒をこっそり持ち込んでいたからだった。私も焼酎を持ち込んでいた。わざわざ岡山から、この日の『前祝い』の為にバックの底に忍ばせてきたのだ。実はこの焼酎、中々手に入らない代物で葉書を出して抽選で購入権を獲得し、やっと手に入れたのである。1 年間応募し続けたが後にも先にも 1 回しか当たらなかった。『森伊蔵』もみんなで飲んだ。今年の 4 月に早慶戦を観に行ったとき、浅草のお店で売っているのを見かけでビックリした。同じ物が 2 万 8 千円で売られていた。・・・3000 円程だったが・・・世の中、怖い事だらけだ。
　ここでやっと、私も誰が酒に強いか、よ～～～く分かってきた。味野父は良く飲むが割りと早くに酔ってしまう。味野母も赤くなって直ぐにストップ。植田母は赤くもならず飲んでいるが、強い方かな？安田母マジ強い、2 次会でみんなウーロン茶にしても、水割りを飲んでいた。更に上は、草地夫婦。父は余り変わらないが、母は呂律(ろれつ)が回らなくなっても未だ行ける。私が、勿体無いけどもう飲めないと置いたグラスのお酒を替わりに飲んで

くれるぐらい強い。その上が、森本夫婦。多少赤らむものの、二人とも平然とドンドン飲み続けていた。ひぇ～～～！！こんな人たちに酒飲みと思われていたなんて恐れ多くて近寄れません！！関西の優勝を確信してみんな、盛り上がっていた。

2 次会はカラオケスナック。宴会場を出て、上にあがるエレベーターに行く途中にあるのを安田母が見つけた。

「カラオケ行こうやー！」

皆、ゾロゾロと引き返し、先に上に上がった人達を呼び戻し入店。

飲み放題歌い放題、2 時間で森本父と味野母が料金交渉。他にお客は居ない。貸し切り状態で始まる。途中 2 人私らより年配のアベックが入ってきて、交互に歌う。向こうはムード歌謡のデュエットをとっても上手に歌う。玄人はだしって言うんだっけ。こっちは上手さでは叶わないから団体戦でと、周りで踊り始める人も出る。いつの間にか、味野父はカウンターでママさんとお喋りしている。さすがに力負けしたのか、アベックは退場、また貸し切りに。ここでも選曲で好みが発覚する。安田母は実は演歌が歌いたかったようで「夜桜お七」をやっと選ぶ。森本父の曲は誰も知らないムード歌謡？と思うぐらいお色気たっぷりの映像が流れる。一応、ポップスなんだそうな。味野母も可愛い声で歌う。私も歌う。植田母・徳本母はみんなと一緒でないと歌わない。森本母は絶対嫌だと言う。草地母は「学園天国」ホントに好きだ。ワイワイガヤガヤと騒いでいるうちに 2 時間あっという間に過ぎた。またまた、森本父が延長の料金交渉を始める。そんなこんなで遅くまで、店の閉店時間まで歌い続ける。締めはTOKIOの「宙舟(そらふね)」。皆で漕ぐポーズをしながら大声で歌う。そして、

「フレー！フレー！カ・ン・ゼ・イ！！」

「フレッフレッ関西！フレッフレッ関西！」

パチパチパチパチ・・・・・・・・・。人差し指を高くさし上げる。

10 月 7 日(日)、準決勝。

この日も快晴。お天気に恵まれる。会場に行く前にホテルの売店でお土産を見る。『いぶりがっこ』はここで買っておかないと買えないかもと稲庭うどんと共に購入する。帰って食べてみると美味しかった。

会場に上谷夫妻が、応援に仙台から車で駆けつけて来てくれた。黒塗りの総革張りのベンツでとてもデカかった。子供達は取り囲んで？まぶれついて「すげー！」を連呼したと言う。草を刈っただけの駐車場で一際(ひときわ)目をひいた。差し入れは仙台名物『笹かま』個別包装してあり、とっても美味しかった。みんな 2 つずつ食べる。味野母によると、これはお土産屋では売っていない高級品とのこと。帰りにS.Aで同じものを探すが当然の事ながら無い。ご挨拶はするものの、それほど親しくお話はできなかった。今思えば上谷母と初めてまともにお話したのは国体が終わって岡山でお電話をいただいたのが最初だ。こうしてみると、森川先生にしろ上谷さんにしろ、現役の時より卒業してからのほうが身近に感じ

ている。
　上谷母が桑野造船の社長と暫く話しをされていた。750m 応援場所のすぐ隣にショップを出していた。上谷母は１冊の文庫本を持って、こちらへやって来た。社長の話が出ている本だという。みんなで回し読みした。只者では無いと思ったが、このおじいちゃんの凄さを知るのは、もうちょっと後になった。彼は、選手として活躍し、その後指導者となり、最後は艇まで作ってしまうようになる、ボート一筋の人生を送っている人だった。
　そして、もう一組秋田まで応援に駆けつけてくれた人達がいた。岸本母子だ。6 日の朝飛行機に乗り、晩に到着していた。応援席まで歩いていたら、森川先生が気付いて
「おぉ！大佑！！来てくれたんか！！」
「おーい！みんなー！岸本が来てくれたぞー！！」
リギングしていたクルーがこっちを見る。笑顔が溢れてくる。
「おー、大佑。お前も手伝え。」
「えっ？でも ID カードが・・・」
岸本母が言うと
「かまわん、かまわん。入れ入れ。」
皆と混ざった。遠い所での試合は応援団の人数が少ない。部員だって自腹で来る子は少ない。まして、秋田、サプライズの登場だった。

9 時 30 分、少年女子クォドルプル
　岡山県　岡山選抜・・・4 着　準決勝敗退

　この日、ここのコースに魔のレーンが発生する。記録を見ると１試合を除いて１レーンは全て 3・4 着に終わっている。それも 4 着が多い。観戦していても良く分かった。終盤ラストスパートをかけても１レーンだけ伸びないのだ。それどころか、どんどん引き離されていく。それを『重い』と言い表していた。ここは農業用水。流れ入ってくる水量の関係でこんな事になったと、次の日、菅生母から聞いた。よって、決勝の 8 日はこんな事は起こらないように調節されたという。魔のレーンだろうが何だろうが文句は言えない。タイム順で決められた以上仕方がない。
　民泊先の柏さんのおばぁちゃんが応援に来てくれた。息子さんは少年野球の監督で今日は試合で来られないと言う。
　この日、皇族のなんとか様がご覧になるという。興味が無いのでむしろ、「やでやで競技中断になるのか」と思ってしまう。近隣の小学生だか中学生だかが列をなして縁道に並ぶ。ボートさえ知らないし、夏休みにわざわざかり出されているとは、ご苦労様としか言いようが無い。黒塗りの車が一瞬通り過ぎるだけしか見えない。天覧試合というのは過去にもあり、関西にとっては嫌な思い出がある。私も聞いた話しだが、天覧試合にはフライングを取らないと踏んだあるチームがゴー！の前に飛び出し、そのまま 1 着に成ったと言う。

勿論、やり直しはなかった。その後、抗議の声が殺到し、日本ボート協会も苦しい言い訳をしながら、各チームに今度はフライングをとるぞ！と、注意を促している。この日、フライングするチームは無かった。

12 時 00 分、準決勝。

ダブルスカル

1. 岡山県　岡山選抜(森本・味野)・・・4 着
2. 富山県　富山選抜・・・・・・・・・1 着
3. 滋賀県　滋賀選抜・・・・・・・・・2 着
4. 静岡県　静岡選抜・・・・・・・・・3 着

やはりレーンが重たかった。敗退。

応援団も落ち込む。もう、寒風山どころではない。静かに次の試合まで会場で過ごした。

14 時 50 分、クォドルプル

2. 滋賀県　滋賀選抜・・・・・・・・・3 着
3. 岡山県　岡山選抜・・・・・・・・・1 着
4. 兵庫県　兵庫選抜・・・・・・・・・2 着

兵庫の柳学園とどれだけ差をつけるかが見物だった。前半トップをキープするも 1 秒差しかなかったが、後半のスパートが弾ける。4 秒以上離してのトップであった。向かうところ敵無しのようなクォードの姿に応援団も少し、元気を取り戻す。

16 時 10 分、成年男子ダブルスカル

1. 岡山県　岡山選抜(増成・宗正)・・・4 着

16 時 20 分、成年男子シングルスカル

1. 岡山県　岡山選抜(福田)・・・・・・4 着

どちらも、ここで敗退する。

岡山選抜はクォードのみと成った。しかし、この落ち込みを次の日まで引きづらないように、気持ちを切り替えようと努力する。ホテルへ引き上げる。あっ！！ババヘラアイス食べるの忘れた！！森本父は毎日のように食べていた。

「好きやな――――！」

と、私が振ると森本母が

「そうなんよーー！学校帰りにサーティワンが在るんだけど、毎日寄ってるのよ。それもダブルで。」

ちょっと意外。甘辛党って結構いるんだな。

この日の宿は、初日に泊まった秋田駅前のホテル。味野号には岸本母子が加わる。ホテルに戻る間、助手席で大佑が眠ってしまった。何でそんな話になったか覚えていないが、岸本母が昔話を始めた。『大佑初めてのお遣い』3 歳の時、生まれたばかりの弟の世話で母が大変なのを見て「お母さん、大変でしょう。僕が買い物にいってあげる。」と言う。「はいはい」と聞き流していたが、いつの間にか姿を消した事に気が付いた母は、真っ青になり、いつも行っていたスーパーに向けダッシュした。交通量の多い通りを渡らなくてはいけなかった。向こうから 3 歳の息子がスーパーの黄色い籠を抱えてやってくる。無事に通りを越えて・・・中にはひき肉が 1 パックはいっていた。(う～～ん。よく気付かれずに店から出てこれたな！)「はい。お母さん。」と差し出したと言う。自慢げな息子を見て、思わず抱きしめたと。「優しい子なんよ。」「お金は払いに行ったけどね。」感動的な話にウルッとしてしまったが、その時、ガタッ！っと音がした。上を向いて爆睡していた大佑が体勢を崩したのだ。感動が笑いに変わる。憎めない奴である。

今日の夕食は、既に予約していた。1 日目どこで食べようか探していた時、満席で断られた居酒屋だ。売りは地酒と『きりたんぽ』。まだ食べていない岸本さんに丁度良い。この日も満員で注文してもなかなか出てこない。大佑もおばさんの中で緊張？気味だが、一緒に食べに来てくれるのが嬉しい。うちなら絶対遠慮して、自分はラーメン屋で済ますだろう。

母ちゃんズの会話には余り入ってこない。話を振っても、「はぁ」が多い。でも 1 つだけ話が聞けた。鬼火弾号の掃除などを真面目に綺麗にするのは、森○と赤○らしい。割と適当に済ます子が多いことが判明した。店には悪いが、菅生家でご馳走になった『きりたんぽ』の方が数段美味しかった。あ～～、岸本さんにも食べさせてあげたかった。

試合も明日を残すのみとなった。店を出て空を見上げる。星が出ていない。気のせいかポツポツ顔に何かが当たる。

10 月 8 日(月)、体育の日。

朝、外を見ると小雨が降っていた。まただ。秋田に来てまでこうなるのか。会場に向かう時間まで小一時間ほどある。お土産を見に駅ビルへ行こうと内線電話がかかってきた。もちろん OK だ。お土産売り場の開店を待って入る。待っている間、『ガシャーンッ』と大きな音がする。風で窓ガラスが割れたのだ。風も強いのか・・・不思議と腹が立たない。もう、慣れっこになってしまった。雨でも風でも好きにしてくれ。ただ、中止だけは勘弁してくれ！と願った。

味野母が声を上げた。

「なーーんだ。“わっぱ”って、いっぱい売ってるジャン。あんなに探して買ったのに・・・。」山ほど置いてあった。選びたい放題である。でも、結果論なので、見つけた時に買うのが一番と無理やり納得する。其々、売り場を見て周り。『金満』を最後に買って、ホテルに戻

った。私はこの『金満』を勤め先のフロント用に買った。子供達が帰りに仙台ワシントンに泊まると聞いて、岡山のフロントチーフに宜しくと電話をしてもらっていた。この『金満』相当美味しいらしい。名物らしく、帰って調べたら秋田で知らない人がいないと言う。自分のも買えば良かった・・・。

ホテルを出る頃には小雨から本降りへと変わって行った。駐車場まで荷物を抱えては大変だからと味野父が取りに行ってくれた。

ショッピングセンターに寄る。レインコートを百均で購入する。降りが小止みになる。

会場に着くと岸本はロープを越えてさっさと仲間のほうへ行ってしまった。雨が気にならない程度なので安心した。

最終日なので買い物も済ませなくてはいけない。秋に行われる市民レガッタで着る T シャツを買おうとショップを覗く。応援に来ていない 19 母ちゃんズにはお土産として、買って帰ろうと皆で選んだ。これで、お揃いのユニフォームとなった。業者の写真も注文して返ろうと入った。送料が高い！植田母と 2 人分一緒に注文する。送料半額で済ませた。

今日も、上谷さんが応援に来てくれていた。例の車はドロドロの駐車場では汚れてしまうので、舗装された場所に停まっていた。OB では、増成さんも飛行機で飛んできていた。三村母も自力でやって来た。クルーメンバー全員の保護者が揃った。

あれぇ？？見慣れた女の子と保護者がいる。どうしたのかと聞くと、

「昨日で終わったんですが、関西の応援がしたくて、子供達が監督さんに頼み込んだのよ。」

試合が終わった時点で民泊を出なければならなかった。そのまま泊まっても民泊先に県からの援助はでない。彼女らも良いお宅にお世話になれたらしい。まして、保護者は車中泊を決め込んで秋田に来ていた。それを聞いた民泊先が、保護者の方もどうぞと親子でお世話になり、毎日宴会だったという。

「今日のご飯は何にしようか？」

「鶏――――！！」

「そうか。それじゃぁ、締めてこようか。」

という会話が有ったとか。4 人 5 人でも大変だし、居なくなると寂しいのに、これだけ一気に帰ったら、おじいちゃんおばあちゃんとマリ(犬)は、さぞかし寂しく思われただろう。そうまでして、関西の応援をしてくれたのは嬉しかった。

11 時 40 分、少年男子舵手つきクォドルプル決勝。

1. 福井県　福井選抜
2. 岡山県　岡山選抜
3. 山口県　西市高校
4. 新潟県　新潟選抜

福井のクルーは殆んど美方高校だが、1 人バウに敦賀工業の選手が混じっていた。インハイ優勝の意地がある。

西市高校『修行僧集団』みな、ボウズで彼らの周りはやはり、空気が静寂で引き締まっていた。インハイ 3 位で次は優勝を狙ってきている。
新潟、阿賀黎明高校が殆んどだが、ここも 1 人バウに新潟南高校の生徒が混じっていた。インハイでは、準決勝で美方と柳に負け 3 着となり、苦渋を舐めていた。リベンジを狙う。

スタートも観たい。750mでも応援したい。ゴールで優勝の喜びを爆発させるところも観たい。私が 3 人いればいいのに。分身の術も使えない。
スタートに上がる姿を見、声援を送る。優勝してくれると思い込んでの応援でも、やっぱりお祈りをしてしまう。周りを見てもみんなお祈りしていた。
菅生さん、山口さんも応援に来てくださっていた。この人たちの為にも絶対勝って欲しいと思った。慰めてもらいたくなかった。一緒に喜ぶ姿しか想像したくなかった。
ゴールで観る事に決めた。750m 地点にほとんど人がいなくなる。
「どうぞ、行ってください。」
森本父が、声を掛けてくれた。
「ここは、僕らで守りますから。」
父 3 人の顔を見て、ゴールに向かう。

ゴール付近には既に母ちゃんズがオレンジ色の塊を作っていた。一番いい場所にテレビカメラが陣取っていた。OHK だか RSK だか忘れたが。そうか、あそこがベストショットスポットなのか！！ゴソゴソと近づく。
「隣、宜しいですか？」
カメラマンに声をかけた。
「どうぞ、どちらの応援ですか？」
「岡山の関西高校です。」
ニ～～～ッコリと笑いかけた。視聴者だぞ～～！と言わんばかりに。
「あっ・・・そうですか。でも、カメラの前に立ち上がらないで下さいね。」
「はいはい。」
そんな事するもんか！子供達が映らなくなるじゃないか。しゃがんでゴール方向を見つめる。そして、また、お祈り。耳を澄ます。・・・・アテンション・・・ゴーの声が聞こえた。

何も見えない。針の先ほどの艇が 4 つポツポツと並んでいるだけだ。
500m過ぎまで福井に先行される。750m 地点で応援が始まる。父達の目の前で福井を指し、トップに出る。差を付けようとするが、福井も負けてはいない。追いずがって来る。しかし、関西のスピードはのってきている。
「関西でとる！！」

母ちゃんズの１人が叫ぶ。
「うん。出てる出てる！！」
皆が叫ぶ。ゴール地点なので思い思いの声援を力いっぱい叫び続ける。
「行け――――！！」
「上げろ――――！！」
「ラスト――――！！」
「滑り込め――――！！」
徐々に差を広げていく。女の子の前を過ぎる。女の子の声援が耳を突き刺す。一瞬のうちに艇が滑り込んできた。
「よーし！よしよし・・・」
クルー全員の腕が上がり、人差し指を天に突き上げる。ガッツポーズあり、雄叫びを上げやっと掴んだ優勝の喜びを体全体で表していた。
　カメラの邪魔をしないように、少し離れて、オレンジの集団が飛び跳ね、抱き合い、肩をたたき、握手をする。みんな泣いていた。乗ってない子の親も、「おめでとう！」を連呼しながら。・・・アレッ？校歌が聞こえる。・・・振り向くと、静かに、本当に静かに校歌を歌っていた。喜びを噛み締めるように・・・。
　投稿しなくては！！・・・ハッと我に返り携帯を開く。何て書いたら良いんだろう。子供達には「おめでとう」だし、あぁ、でも、感動も貰ったから「ありがとう」かな？応援してくれた人にも「ありがとう」って言いたいし、どうしよう、どうしよう。早くこの喜びを伝えないと、岡山で戸田で瀬田で、日本中で結果を待っている人がいる。

『国体決勝　　やったどー！優勝だ優勝だ１位です。エガッタエガッタ！！有難う　みんな！！』

　優勝　岡山選抜・・・3 分 08 秒 99
　2 位　福井選抜・・・3 分 11 秒 82
　3 位　新潟選抜・・・3 分 14 秒 28
　4 位　西市高校・・・3 分 17 秒 14

　どのチームも素晴らしいタイムだった。ただ、関西は飛びぬけてすごいタイムを出していた。
　艇を上げて、リガーを外す作業を見る。隣で西市が黙々と作業を進めていた。対照的な姿を見た。美方と T シャツを交換していたのは〇地？先生のインタビューが始まる。途中から涙が溢れ、声が詰まる。何を言っているのか分からない。「ありがとうと言いたい。」とだけははっきり聞こえた。次はクルーのインタビュー。テレビで放映されたのは、〇村と〇西だけだった。・・・・この試合の映像はこの日の夕方のニュースで流れる。どうしよ

う！岡山に残っている 19 母ちゃんズにすぐ連絡をとる。後日、岩崎母が皆に DVD を配ってくれた。きっと、お金は貰ってくれないと踏んで『カモメの卵』をお土産に S.A で買って帰る。

岸本母子が慌てて、帰路につく。表彰式も見たかったのだが、飛行機の時間に間に合わないと言う。シャトルバスでは間に合わない。増成母と岸本親子でタクシーを飛ばす。ギリギリセーフで機上の人となった。

武田大作選手のインタビューもしていた。これは岡山の放送局ではない。愛媛あたり？間近で見る武田選手はとても小柄でビックリした。

表彰式まで時間があったので 750mに戻ると、荷物がない。雨に濡れるし、片付けがはじまっていたからと上谷母が気を利かせて、移動してくれていた。こんなにたくさんあるのに？親までも面倒をかけてしまった。

表彰式準備の間、菅生さん山口さんと喜びを分かち合い、お礼を口々に述べる。植田母と味野母、草地母はバラバラに色んな方向から撮ろうと、いい場所を探してウロウロする。

チーム代表で入場してきたのは森〇キャプテンだった。先生の粋な計らい？昨夜のミーティングの話「キャプテンは森〇じゃないと駄目だったんだ。」を聴いたのは大分後である。表彰後振り向き、賞状片手に人差し指を挙げ

「いちば～～～～～ん！！」

と声をあげた。輝いていた。キャプテンとしての最高の締めを飾った。

総合優勝の発表とか、村長の挨拶があったみたいだが、そんな事はどうだって良かった。福井が持っていくのは分かりきっていたから。

その後、表彰状と一緒にグループ写真を撮り始める。菅生さん、山口さんと一緒に宿泊別でも撮った。何も無くなったリギング場で、胴上げが始まった。まず、森川先生から。雨上がりの空高く飛び上がった。次に、森本保護者会長が空を舞う。菅生さんが、山口さんが、次々と子供達に囲まれ宙に舞った。・・・なぜか千葉父も・・・掛け声はもちろん「丸大ハム」森川先生までも参加していた。そして、森〇キャプテンの胴上げ。上半身を脱がされ、半分パンツも見えていたが気にする人は一人もいない。本人だけだろう。集合写真を其々のカメラで撮り、興奮も冷め遣らぬまま、「お世話になりました。」と握手をして、帰路に着いた。祭り後の寂しさよりも感動が覚めやらず、ハイな気分で車に乗り込んだ。

『ありがとう秋田！感動をありがとう！！』

～もう、無冠の王者なんて言わせない。

結局、ババヘラアイスを食べ損ねたまま、また、1300ｋｍの旅が始まった。帰路に着く前に、寄らなくてはいけない場所があった。歓迎会の時、「このお酒は農協にありますよ。」

と教えてもらっていた。「でも、わだちは、もう無いでしょう。」地元のお酒は地元で探さないと！買い物には付き合えないと、味野父は車の中で待つが、なかなか戻って来ないので、店の脇でタバコをくゆらせる。『ひやおろし』は 1 本しかなく、植田母に譲った。私の場合はお土産になるから、飲む人が優先すべきだと思った。居酒屋で美味しいと思った銘柄を選ぶ。途中、割れないようにとサービスカウンターでしっかりプチプチで包んで貰う。やっと、出発だ。

夕食は途中のラーメン屋で済ます。子供達とは雲泥の差で慎ましく済ませた。帰りの車の中は先生からの宿題が有り、先ず味野母が済ませ、私も無い頭でああでもないこうでもないとブツブツ言いながら、感想投稿をしていった。

その頃、子供達は、お世話になった民泊先に別れを告げ、仙台に向けて、マイクロバスを走らせていただろう。夕食は優勝祝いである。・・・回らない鮨屋でビルの上のほうにある、高そうな所だとか。それだけで、何と贅沢な！！親も縁がなさそうな場所だぞ！！　一応、おまかせで注文はしてあった様だが、それだけで済むわけが無い。ズラッとカウンターを占領した彼らは、思い思いに注文を始める。怖いもの知らずとはこの事だ。まず、お寿司がちょっと苦手な植〇が

「刺身で頼んでいいですか？」

と切り出し、OK と見て取ると、

「トロ」

後に続けとばかりに、トロを連発する。もう止まらない。アワビ・ウニ・イクラと普段食べなれてない物を次々と注文する。始めは笑って見ていた先生も最後は冷や汗もんではなかっただろうか？どんだけ散財させたのだろうか？考えるのも怖いので考えない事とする。本当に 19 年組は後援会の方にもいっぱいお世話になり、美味しい思いをさせてもらっている。

さて、話しは味野号に戻そう。途中で女の子達の車と出会った。これから夕食といった感じだ。1 日延ばして応援してくれた嬉しさから、売店でお菓子を買い、彼女達に渡した。「車で食べて。」と、遠慮していたが「内緒にしとけばいいじゃん。」と押し付けた。直ぐに監督がお礼に来る。やっぱりこの子ら賢いわ。と感心する。

優勝の喜びに気分はハイに成っていても、応援疲れは出てきた。運転手には申し訳ないが、気が付けばうつらうつらしてしまう。ハッと気が付くと S.A に入っている。行きと違って帰りの休憩は本当にトイレ休憩とコーヒーを買うぐらいになる。安田母は携帯の電池切れに泣いていた。寄る度に充電をちょこっとする。

停車に気が付き、「ここは、どーこー？」看板を見ると新潟と書いてある。皆が売店に入っている間に叫ぶ。と言っても、応援で声はかすれていて大声は出ない。

「ザマーミロ！」

福井ではないが、何となく言ってみたくなった。じきに福井にも停まる。絶対にここでは叫ばなければと思う。みんながいないうちに・・・。
「ザマーミロ！！」
よしよし、もう一度
「ザマーミロ！！」
背後から声が掛かった。
「あんた、何しょうるん？」
しまった。聞かれてしまった。笑ってごまかす。深夜なので辺りは静まり返っていた。山の谷間から町の灯りが微かにのぞいていた。
　途中、運転手が代わる。味野母は凄いスピートで深夜の高速を飛ばす。かなり時間の短縮になったのでは？そして、また父に代わる。この夫婦にはこの 1 年大変お世話になった。選抜・朝日・インハイ・国体すべて、往復だったり片道だったりしたが乗せていただいた。
　朝 8 時、岡山駅前に到着。私はその足で勤め先にお土産を持って行き、2 階の喫茶で新聞を開く。返るまで待てなかった。デカデカと掲載された、優勝クルーの写真と記事に見入る。喫茶の店員も仕事仲間。「見て見て！」と自慢する。ボストンバックとお土産の入った大きな紙袋を抱え、自宅に新聞が来ているとわかっていても、もう 1 部とコンビニで購入して家に帰った。

　暫し、ゆっくり自宅で休む。そろそろ駅に息子を迎えに行かなくては。
　新幹線の改札口には、見慣れた顔が集まっていた。みんなで入場券を買い、ホームへ登る。新幹線が滑るように入ってきて止まる。森川先生、長浜コーチ、子供達が降り立った。「あめでとう！」「おめでとうございます。」とあちこちからお祝いの言葉が掛かる。帰岡の挨拶を聞く。OB 保護者も多数、駆けつけて来てくれた。まさに凱旋だ。ホームでみんな揃っての記念写真を撮り、解散した。遅れてきた OB 保護者も改札辺りで出会う。スポーツバックとお土産の入った袋を重そうに抱えている。2つは無理なので1つ持ってやる。土産話しを山ほど聞きたい気持ちを押さえて、自宅に戻った。
　　・・・口下手？な息子から土産話しは出てこなかった。
　　出てきたのは、洗濯物ばかりであった・・・。

≪プロローグ≫

怒涛の 1 年が終わった。

全ての試合で優勝候補と言われたチームが秋田国体で、やっと 1 つだけ、最後の最後で栄冠を勝ち取った。プレッシャーもひとしおに感じただろう。先輩から受け継ぎ、後輩へ残していくものの大きさは親が考えるより大きかったかもしれない。その分喜びも大きかった。12 月の祝賀会で壇上に上がったのは、優勝クルーだけでなく、3 年生全員だった。胸を張って彼らは関西高校を巣立っていった。

親だって、この 3 年間傍で、お金の工面と声援だけ贈って来たのではない。私は子供本人の自己管理に殆んど任せていたが、それでも炭水化物が少ないメニューを心掛けたりコンニャクを活用したりした事も有った。希望により食事を抜かずに太らないものとして、カロリーメイトを大量に買ったこともある。森川先生が漕手には鶏の胸肉が言いと言えば、図書館で胸肉料理のレシピを調べ、レパートリーを増やしていった三村母。どうやったら体重が増やせるかと悩み、子供の好物三昧に家族みんなで毎日のように豆腐料理を付き合った岸本家。しっかり食べてもらう為、おむすびに工夫をこらして持たせ続けた味野母。お弁当を旭川の魚のえさにする子もいたが、しっかり食べてもらおうと皆、悩んだのだ。簡単でご飯が大量に食べられるおかずの情報交換やプロテインのまとめ買いなど、世間話の中に散りばめられていた。子供と一緒に戦っていた。だから、勝てば自分達が勝った気にだってなる。まして、母にとって子供は分身だ。

今、子供達は戸田・瀬田・岐阜・広島へと、ほとんど親元を離れていっている。食の管理はもう出来ない。洗濯物も激減し、牛乳と卵の消費も激減したため、当初はみな消費に苦労した。散らかる事の無い部屋、居間のテレビは野球やサッカーを映すことはなくなった。子供部屋は時々風通しと埃を払う程度の掃除になり、家が広く感じる。息子との連絡はと言えばメールの返事も『ヘイ』とかの一言で、何がわかって何がわかってないのかさえ分からない状態だ。痩せた子、太った子と様々だが、頑張って欲しい。自分にどれだけ厳しく出来るかが勝負の第一歩だと思う。そして、ライバルとして戦う為にも、シート争いに勝ち這い上がって来て欲しい。全ての試合が関西 OB 対決になるほどに。

平成 20 年、春。入りたての新入生でもいくつか試合に出させてもらえた。お花見レガッタは入学式前だ。NRM、グリーンレガッタ、全日本軽量級と戸田では何人かの子が出、観に行けばバンチャリしてる子や艇庫近くで練習してる子など顔を見ることが出来た。自分の息子は隠れるように逃げるが、保護者の顔に懐かしさを感じてくれる子もいて、向こうから話し掛けてくれたりする。戸田に行く楽しみは試合だけに留まらない様である。

世界を目指す子、日本一を目指す子、目標は違っても其々の道を一所懸命貫いてくれればこれほど嬉しい事は無い。母親の願いはみな同じだ。元気で、ただ元気で笑っていて欲しい。

≪あとがき≫

つれづれなるままに長々と私の思い出話しを綴ってきましたが、最後までお付き合いいただいて有難うございました。

森川先生から「文章が面白いから、書いてみてくれませんか？」とお話をいただいた時には「私に文才があれば、エッセイストか小説家になってますよ。無理無理。」と、一旦お断りしたものの、この１年間の自分自身の思い出として、何か残しておくのも良いかなと思い直し、選抜の巻を６時間ぐらいでサラッと書いてみました。先生にお見せすると、「大変、おもしれーです。次は？？？」そのまま、思いつくままに書き続けましたが、事実関係が結構おぼろげで印象に残っていた事柄も、日にちと時間が曖昧で何人かの方に確認をとり、内容によっては書き込みの許可を得ながら書き進めました。それでもどこか間違っていたらごめんなさい。私の視点でのお話しですので、もっと沢山の思い出がある方もいるかとは存じますが、それはそれで、このお話しをきっかけに思い出していただければ幸いです。

また、まさか、ホームページに載せていただく事になるとは、夢にも思ってなかったので、戸惑ったことも有りましたが、無事終わることが出来ホッとしています。まだまだ、書き足りない想い出話しもありますが(市民レガッタ・祝勝会・初漕ぎ会・新年会・卒業式・追い出し会)きりが無いのでこの辺で失礼させていただきます。

最後になりましたが、私はこの『母ちゃんズ』の一人でいられた事を最高に幸せだったと感謝しております。良い仲間として、支えあい励ましあって過ごせた事を大変嬉しく思っております。息子達はライバルとして散らばってしまいましたが、出来れば今後も仲良くして頂けたらと願ってやみません。そして、森川先生、チーム森川のみなさん、保護者のみなさん、関西ボート部を応援してくれているすべての方に御礼申し上げます。私や息子が今有るのも、全てみなさんのお陰です。本当に有難うございました。これからも息子共々お世話になるかと思いますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

敬　　具

関西ボート部 19 年卒　小西淳介　母